

## 花粉症患者の受療・市販薬購入実態 調査結果報告書

2017年1月13日  
株式会社QLife

### ■ 本調査に関するお問い合わせ先

株式会社QLife 〒107-0052 東京都港区赤坂1-11-44 赤坂インターシティ10F  
TEL : 03-6685-2515 / E-mail : [info@qlife.co.jp](mailto:info@qlife.co.jp) QLife編集部 田中智貴

## 調査背景

スイッチOTC医薬品が相次いで発売されるなど、近年、特に治療選択肢が広がっている花粉症。患者はどのような基準で「自分（市販薬）で治す」と「医療機関（処方薬）で治す」を選択しているのだろうか。2016年に医療機関を受診した花粉症患者の受療・市販薬使用実態について、大規模調査を行うとともに、一定数いるとされる、「花粉症（季節性）」と「通年性」の併発患者の受療実態についても調査した。

## 結果概要

### ◆鼻水、鼻づまりなどの症状が出る期間 平均2.3か月。患者の半数は3月中旬までに症状ピークを経験

花粉症の症状がある時期「3月下旬」が70.8%で最多。平均2.3か月間症状が継続。症状のピークは「3月上旬」が17.4%で最も多く、患者の半数は「3月中旬」までに症状のピークを経験。症状は「鼻水」が最も多く9割、約8割の患者が「眼のかゆみ」「くしゃみ」、約7割が「鼻づまり」を訴える。

### ◆患者の半数が「2月上旬」までにシーズン1回目の受診を。シーズン中の受診回数「2回」が最多

2016年春シーズンの受診回数「2回」が28.2%で最多。1回目の受診時期は「2月上旬」が最も多く18.4%。患者の半数が「2月上旬」までにシーズン1回目の受診を行っていた。

### ◆55.8%の患者が処方薬について要望。「前年と同じ」「具体的な薬剤名」で

55.8%の患者が処方薬について「要望した」。内訳は「前年と同じ」50.9%、「具体的な薬剤名」33.0%、「眠くならない」17.4%。処方薬の効果実感「要望に沿った」患者の93.2%が効果を感じ、「要望以外だった」患者の37.5%が効果を感じた。

### ◆21.1%が「受診前」に市販薬使用、10.6%が「受診後」も市販薬使用

21.1%が「受診前」に市販薬を使用、10.6%が「受診後」も市販薬を使用。受診前の市販薬使用「効果を感じた」70.6%。使用理由「受診する時間がなかった」30.8%。受診後に市販薬を使用した患者のうち、「処方薬と市販内服薬を併用」34.0%、「処方薬と市販点鼻薬を併用」29.2%、「処方薬と市販点眼薬を併用」24.5%。その理由「受診する時間がなかった」40.6%、「処方薬の効果感じられなかった」26.4%。

### ◆受診時の市販薬の使用確認 聞かない医師と伝えない患者

市販薬の使用「医師から聞かれなかった」54.9%、市販内服薬の使用「伝えなかった」32.4%、市販点鼻薬の使用「伝えなかった」42.3%。

### ◆市販の点鼻薬は症状を軽減するのに「重要」、でも薬剤性鼻炎「知らない」

市販の点鼻薬は症状を軽減するのに「重要」88.6%。薬剤性鼻炎の原因「知らない」66.1%。

### ◆半数以上が民間療法など薬以外の花粉症対策を経験

薬以外の花粉症対策「行った」53.7%。「ヨーグルト」「甜茶」「ミントガム」「乳酸菌錠」など。

# 調査実施概要

## ▼調査主体

株式会社QLife(キューライフ)

## ▼実施概要

- (1) 調査対象： ・花粉症の治療を目的に2016年春シーズンに1回以上医療機関を受診した患者500名  
 ・通年性アレルギー性鼻炎患者ならびに患者予備群（自覚症状あり）で花粉症も合併しており、  
 2016年春シーズンに1回以上医療機関を受診した患者500名
- (2) 有効回収数：1000名  
 (3) 調査方法： インターネット調査  
 (4) 調査時期： 2016/12/7～2016/12/13

## ▼調査対象内訳

### (1) 性別・年代

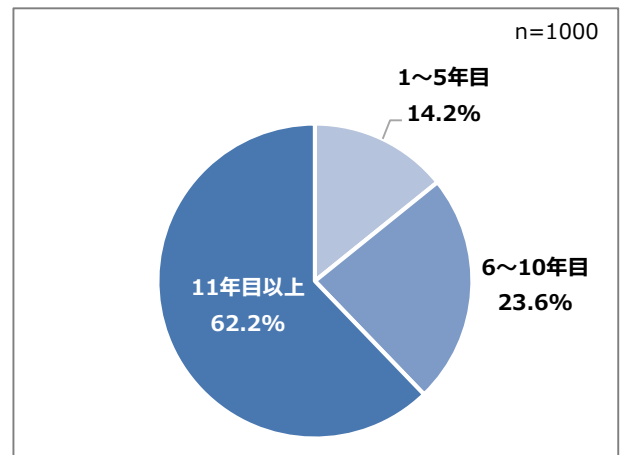
	男性	女性	n	男性	女性	%
20代以下	9	12	21	1.2%	4.5%	2.1%
30代	67	43	110	9.2%	16.0%	11.0%
40代	209	91	300	28.6%	34.0%	30.0%
50代	262	85	347	35.8%	31.7%	34.7%
60代	160	28	188	21.9%	10.4%	18.8%
70代以上	25	9	34	3.4%	3.4%	3.4%
総計	732	268	1000	100.0%	100.0%	100.0%

### (2) 2016年1～6月当時の居住地

北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県
2.2%	0.5%	0.5%	2.0%	0.9%	0.4%	1.8%	3.0%	1.4%	1.3%	7.9%	5.5%
東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県
18.3%	11.5%	0.9%	0.4%	0.3%	0.3%	0.7%	1.0%	2.1%	2.6%	7.5%	1.8%
滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県
0.6%	2.8%	6.5%	4.4%	1.3%	0.4%	0.1%	0.0%	0.8%	1.5%	0.5%	0.5%
香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	
0.5%	0.9%	0.4%	2.4%	0.2%	0.6%	0.1%	0.2%	0.4%	0.1%	0.0%	

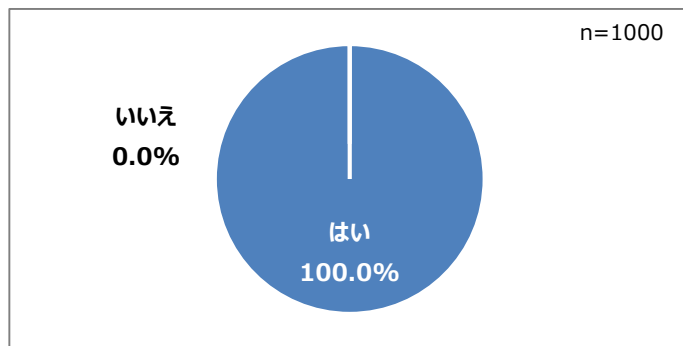
### (3) 花粉症の通院歴

	(SA)	
	n	%
1～5年目	142	14.2%
6～10年目	236	23.6%
11年目以上	622	62.2%
総数	1000	100.0%



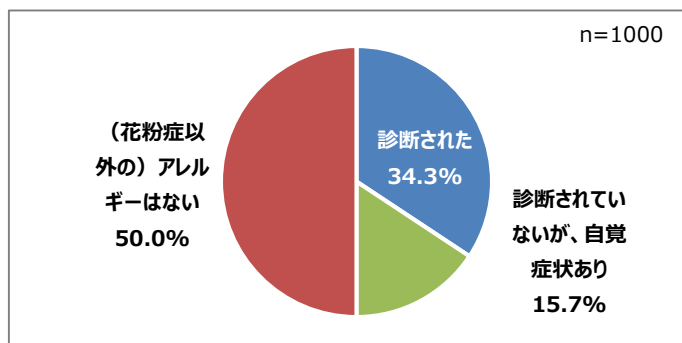
【SC1】2016年春の花粉症シーズンに花粉症の症状（くしゃみ、鼻水、鼻づまり、眼のかゆみ、肌荒れなど）の治療を目的に1回以上病院・クリニックを受診しましたか。

	(SA)	
	n	%
はい	1000	100.0%
いいえ	0	0.0%
総数	1000	100.0%



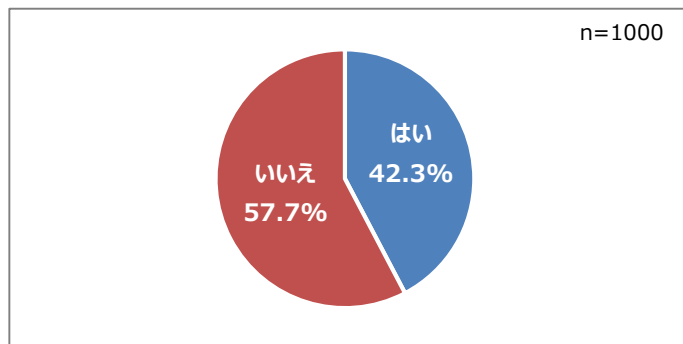
【SC2】花粉症以外のアレルギー（ハウスダスト、ダニ、カビ、ペットの毛など）をお持ちですか。

	(SA)	
	n	%
診断された	343	34.3%
診断されていないが、自覚症状あり （花粉症以外の）アレルギーはない	157	15.7%
診断されていないが、自覚症状あり （花粉症以外の）アレルギーはない	500	50.0%
総数	1000	100.0%



【SC3】2015年末から現在までに風邪以外が原因の鼻炎の改善を目的に、市販の内服薬または点鼻薬を購入しましたか。

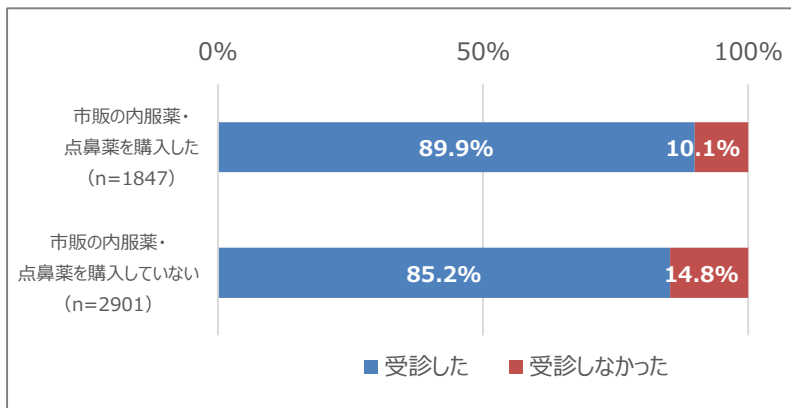
	(SA)	
	n	%
はい	423	42.3%
いいえ	577	57.7%
総数	1000	100.0%



「市販の内服薬・点鼻薬を購入したか」×「医療機関を受診したか」

※スクリーニング調整前の数値で算出

	受診した	受診しなかった	n	%
市販の内服薬・点鼻薬を購入した	1661	186	1847	
	89.9%	10.1%	100.0%	
市販の内服薬・点鼻薬を購入していない	2473	428	2901	
	85.2%	14.8%	100.0%	



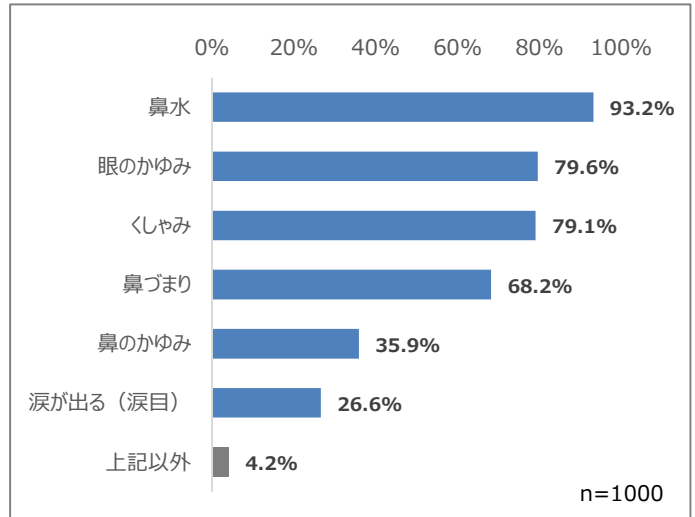
## 調查結果

# 花粉症の症状

## 【Q1】あなたの花粉症の症状（鼻、眼）について、該当するものをすべて選んでください。【複数回答】

93.2%の患者に「鼻水」の症状があった。次いで、「眼のかゆみ」（79.6%）、「くしゃみ」（79.1%）と続いた。1人平均で3.86の症状があった。

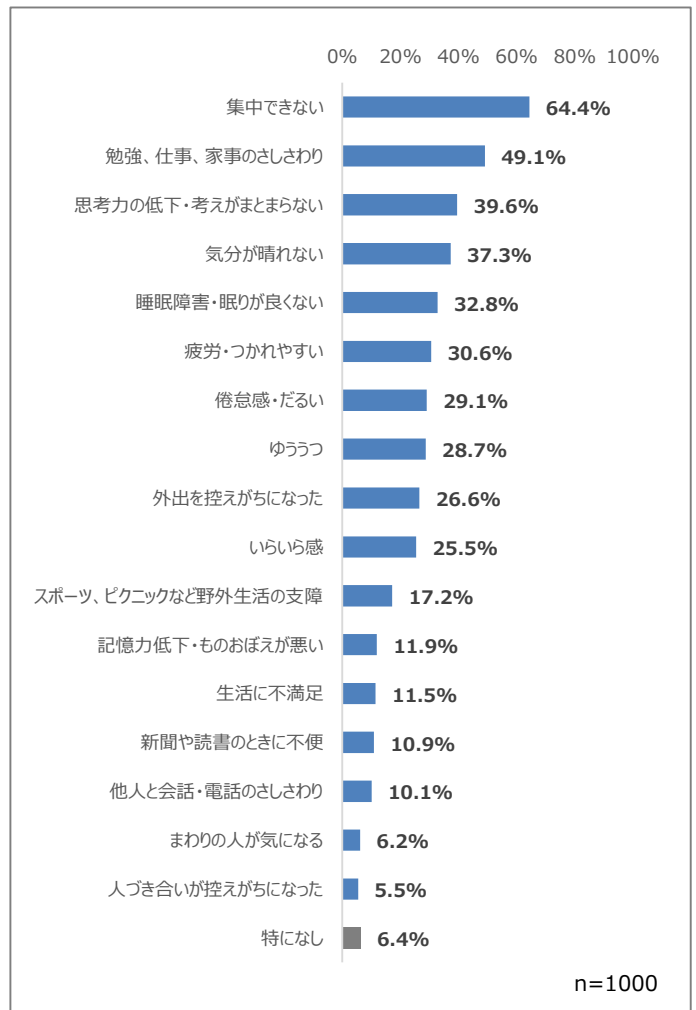
	n=1000		(MA)
	n	%	
鼻水	932	93.2%	
眼のかゆみ	796	79.6%	
くしゃみ	791	79.1%	
鼻づまり	682	68.2%	
鼻のかゆみ	359	35.9%	
涙が出る（涙目）	266	26.6%	
上記以外	42	4.2%	
総数	1000	386.8%	



## 【Q2】花粉症の症状のために、日常生活で困っていた事柄を教えてください。【複数回答】

患者の93.6%が何らかの事柄で日常生活に困っていた。内訳は、「集中できない」が最も多く64.4%。次いで、「勉強、仕事、家事のさしさわり」（49.1%）、「思考力の低下・考えがまとまらない」（39.6%）だった。

	n=1000		(MA)
	n	%	
集中できない	644	64.4%	
勉強、仕事、家事のさしさわり	491	49.1%	
思考力の低下・考えがまとまらない	396	39.6%	
気分が晴れない	373	37.3%	
睡眠障害・眠りが良くない	328	32.8%	
疲労・つかれやすい	306	30.6%	
倦怠感・だるい	291	29.1%	
ゆううつ	287	28.7%	
外出を控えがちになった	266	26.6%	
いらいら感	255	25.5%	
スポーツ、ピクニックなど野外生活の支障	172	17.2%	
記憶力低下・ものおぼえが悪い	119	11.9%	
生活に不満足	115	11.5%	
新聞や読書のときに不便	109	10.9%	
他人と会話・電話のさしさわり	101	10.1%	
まわりの人が気になる	62	6.2%	
人づき合いが控えがちになった	55	5.5%	
特になし（排他）	64	6.4%	
総数	1000	443.4%	



### 【Q3】2016年に花粉症の症状が出た時期をすべて選んでください。【複数回答】

「3月下旬」が最も多く、70.8%。次いで「3月中旬」（69.8%）、「3月上旬」（69.4%）と続いた。平均で2.3か月間、何らかの症状が出ていた。

#### <地域ブロック別>

【北海道】「4月下旬」「5月上旬」「5月中旬」が最も多く59.1%。症状が出る期間は平均で1.3か月

【東北部】「4月上旬」「4月下旬」が最も多く57.9%。次いで「3月下旬」「4月中旬」で47.4%。症状が出る期間は平均で1.3か月

【東南部】「4月上旬」が最も多く73.8%。次いで「3月下旬」（71.4%）、「3月上旬」（66.7%）。症状が出る期間は平均で2か月

【関東北部】「3月上旬」「3月中旬」が最も多く86.0%。次いで「3月下旬」（80.7%）。症状が出る期間は平均で2.7か月

【関東南部】「3月上旬」「3月中旬」が最も多く74.8%。次いで「3月下旬」（73.8%）。症状が出る期間は平均で2.3か月

【北陸】「4月上旬」が最も多く73.7%。次いで「3月下旬」（63.2%）。症状が出る期間は平均で1.8か月

【甲信】「3月下旬」が最も多く70.6%。次いで「4月上旬」「4月中旬」（64.7%）。症状が出る期間は平均で2.6か月

【東海】「3月上旬」「3月中旬」「4月上旬」が最も多く67.1%。症状が出る期間は平均で2.4か月

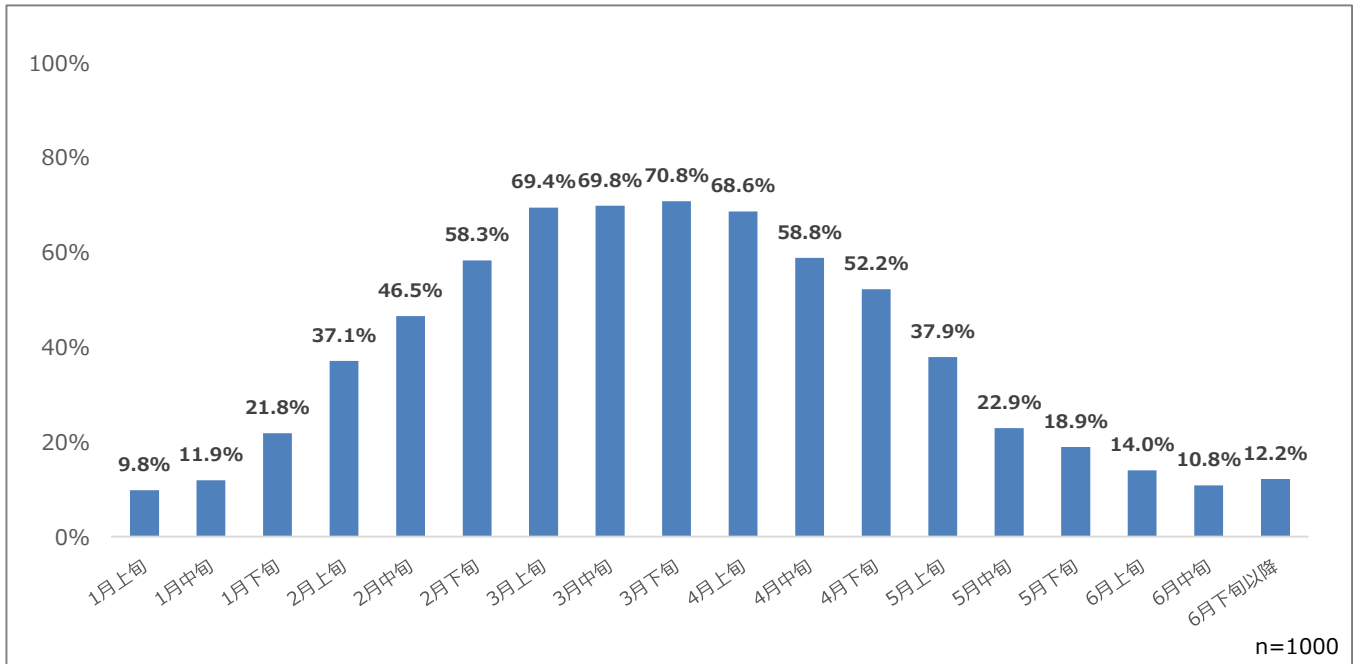
【近畿】「3月下旬」が最も多く71.9%。次いで「4月上旬」（70.0%）、「3月中旬」（67.5%）。症状が出る期間は平均で2.3か月

【中国】「3月中旬」が最も多く82.8%。次いで「3月上旬」「3月下旬」（79.3%）。症状が出る期間は平均で2.7か月

【四国】「3月下旬」が最も多く82.6%。次いで「3月中旬」「4月上旬」（73.9%）。症状が出る期間は平均で2.5か月

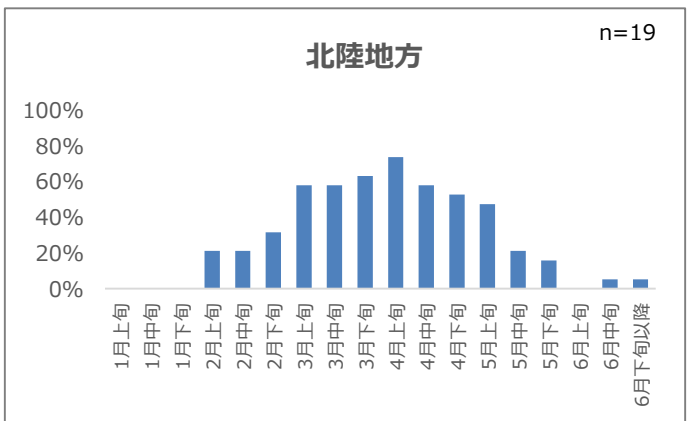
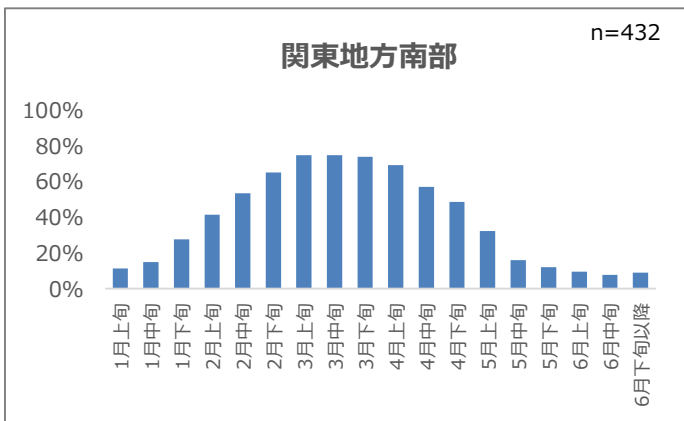
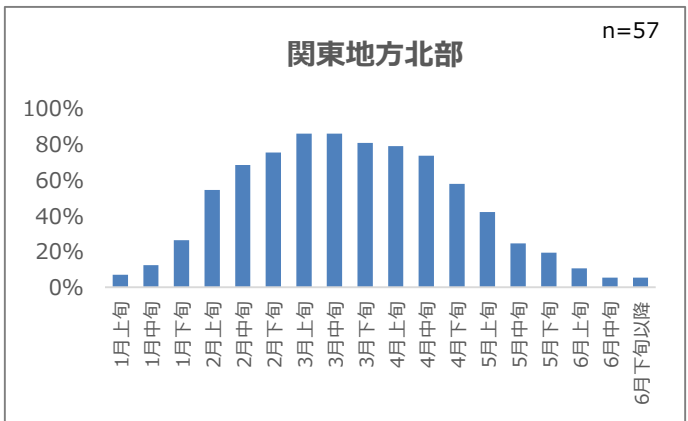
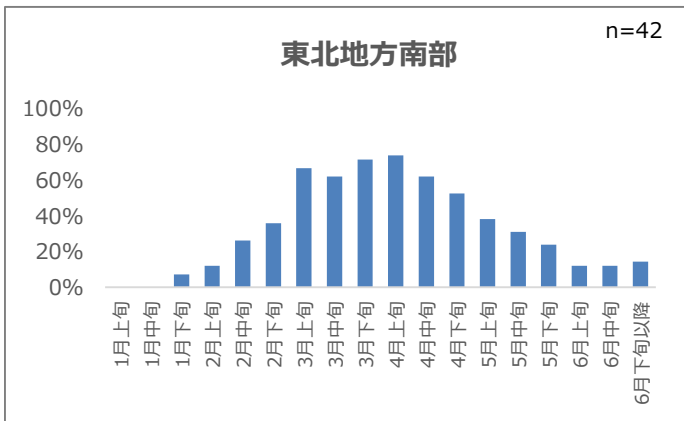
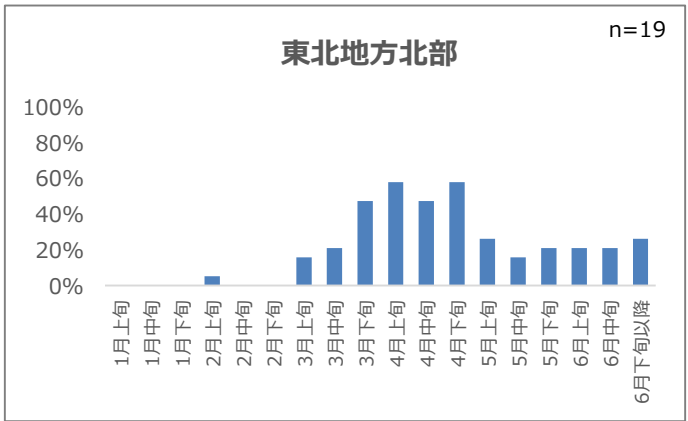
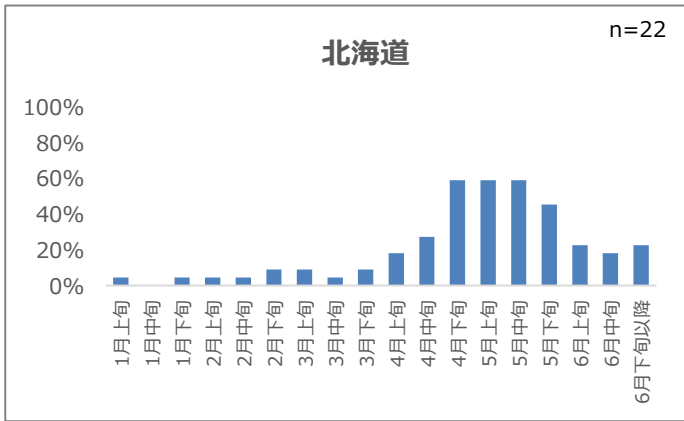
【九州】「3月中旬」が最も多く80.0%。次いで「3月上旬」（77.5%）、「3月下旬」（72.5%）。症状が出る期間は平均で2.4か月

	n=1000 (MA)	
	n	%
1月上旬	98	9.8%
1月中旬	119	11.9%
1月下旬	218	21.8%
2月上旬	371	37.1%
2月中旬	465	46.5%
2月下旬	583	58.3%
3月上旬	694	69.4%
3月中旬	698	69.8%
3月下旬	708	70.8%
4月上旬	686	68.6%
4月中旬	588	58.8%
4月下旬	522	52.2%
5月上旬	379	37.9%
5月中旬	229	22.9%
5月下旬	189	18.9%
6月上旬	140	14.0%
6月中旬	108	10.8%
6月下旬以降	122	12.2%
総数	1000	691.7%



# 「花粉症の症状が出た時期」×「地域ブロック」

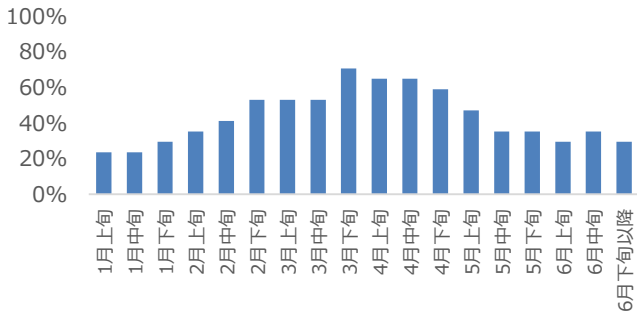
	1月上旬	1月中旬	1月下旬	2月上旬	2月中旬	2月下旬	3月上旬	3月中旬	3月下旬	4月上旬	4月中旬	4月下旬	5月上旬	5月中旬	5月下旬	6月上旬	6月中旬	6月下旬以降	n	%
北海道	1	0	1	1	1	2	2	1	2	4	6	13	13	13	10	5	4	5	22	4.5%
東北地方北部	0	0	0	1	0	0	3	4	9	11	9	11	5	3	4	4	4	5	19	0.0%
東北地方南部	0	0	3	5	11	15	28	26	30	31	26	22	16	13	10	5	5	6	42	0.0%
関東地方北部	4	7	15	31	39	43	49	49	46	45	42	33	24	14	11	6	3	3	57	7.0%
関東地方南部	49	64	119	179	231	281	323	323	319	299	246	210	139	69	52	41	33	39	432	11.3%
北陸地方	0	0	0	4	4	6	11	11	12	14	11	10	9	4	3	0	1	1	19	0.0%
甲信地方	4	4	5	6	7	9	9	9	12	11	11	10	8	6	6	5	6	5	17	23.5%
東海地方	16	18	32	54	67	84	94	94	92	94	82	81	63	41	29	25	16	19	140	11.4%
近畿地方	18	18	30	56	61	84	105	108	115	112	98	84	67	39	40	27	20	22	160	11.3%
中国地方	2	4	4	9	11	20	23	24	23	20	18	17	13	11	10	10	8	6	29	6.9%
四国地方	3	2	2	6	8	14	16	17	19	17	15	13	10	8	6	6	4	5	23	13.0%
九州地方	1	2	7	19	25	25	31	32	29	28	24	18	12	8	8	6	4	6	40	2.5%
																				2.5%





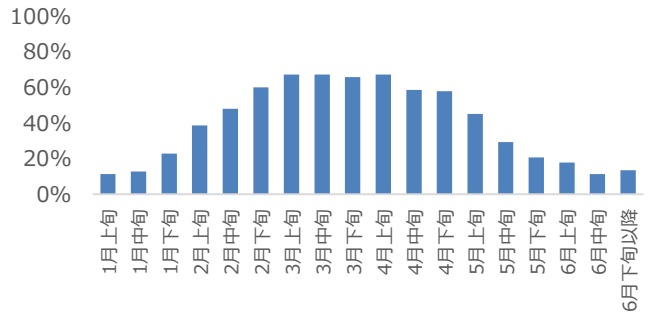
### 甲信地方

n=17



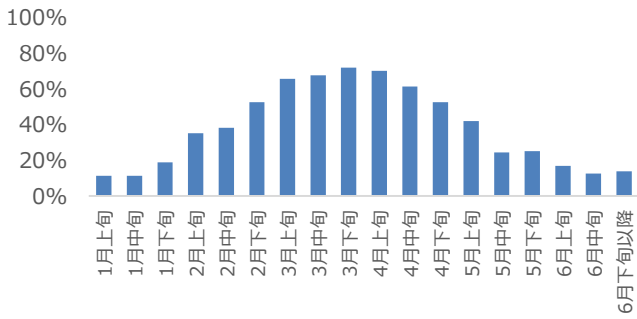
### 東海地方

n=140



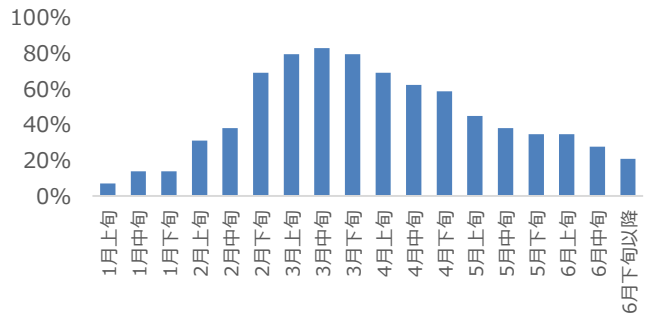
### 近畿地方

n=160



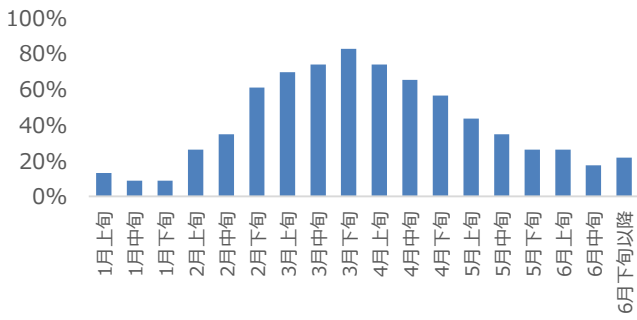
### 中国地方

n=29



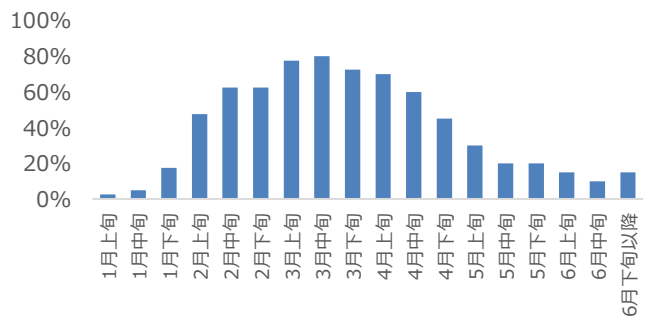
### 四国地方

n=23



### 九州地方

n=40



**【Q4】2016年に花粉症の症状が最もひどかった時期を選んでください。**

「3月上旬」が最も多く17.4%。次いで、「3月下旬」（15.2%）、「3月中旬」（13.0%）の順だった。患者の半数は「3月中旬」までに症状のピークを迎えている。

**<地域ブロック別>**

**【北海道】**「5月上旬」「5月中旬」が最も多く22.7%。  
患者の半数は「5月上旬」までに症状のピークを迎えている

**【東北北部】**「4月上旬」が最も多く21.1%。  
患者の半数は「4月中旬」までに症状のピークを迎えている

**【東北南部】**「4月上旬」が最も多く28.6%。  
患者の半数は「3月下旬」までに症状のピークを迎えている

**【関東北部】**「3月下旬」が最も多く22.8%。  
患者の半数は「3月中旬」までに症状のピークを迎えている

**【関東南部】**「3月上旬」が最も多く21.5%。  
患者の半数は「3月上旬」までに症状のピークを迎えている

**【北陸】**「3月上旬」「3月下旬」が最も多く21.1%。  
患者の半数は「3月下旬」までに症状のピークを迎えている

**【甲信】**患者の半数は「4月上旬」までに症状のピークを迎えている

**【東海】**「4月上旬」が最も多く15.7%。  
患者の半数は「3月中旬」までに症状のピークを迎えている

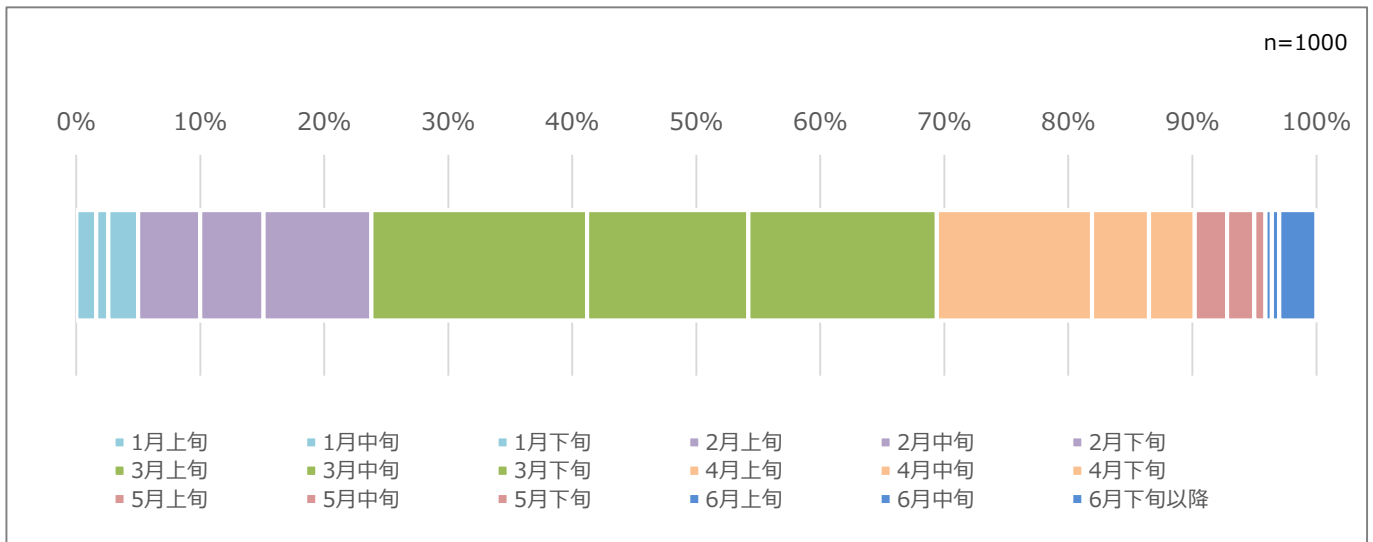
**【近畿】**「3月下旬」が最も多く18.1%。  
患者の半数は「3月下旬」までに症状のピークを迎えている

**【中国】**「3月中旬」が最も多く20.7%。  
患者の半数は「3月中旬」までに症状のピークを迎えている

**【四国】**「3月上旬」「4月上旬」が最も多く21.7%。  
患者の半数は「3月下旬」までに症状のピークを迎えている

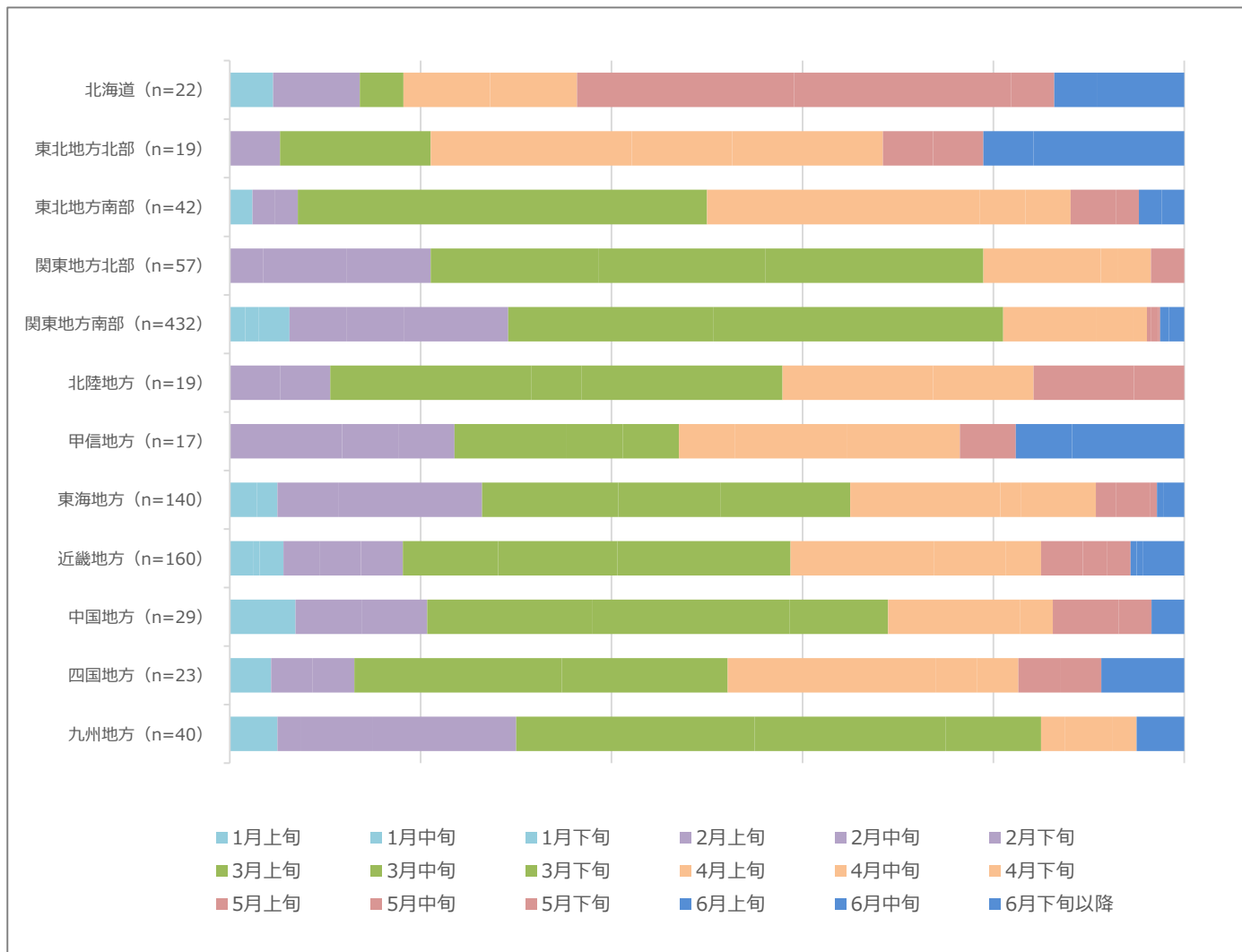
**【九州】**「3月上旬」が最も多く25.0%。  
患者の半数は「3月上旬」までに症状のピークを迎えている

	n=1000		(SA)
	n	%	
1月上旬	16	1.6%	
1月中旬	10	1.0%	
1月下旬	24	2.4%	
2月上旬	50	5.0%	
2月中旬	51	5.1%	
2月下旬	87	8.7%	
3月上旬	174	17.4%	
3月中旬	130	13.0%	
3月下旬	152	15.2%	
4月上旬	125	12.5%	
4月中旬	46	4.6%	
4月下旬	37	3.7%	
5月上旬	26	2.6%	
5月中旬	22	2.2%	
5月下旬	9	0.9%	
6月上旬	5	0.5%	
6月中旬	6	0.6%	
6月下旬以降	30	3.0%	
総数	1000	100.0%	



「花粉症の症状が最もひどかった時期」×「地域ブロック」

	1月上旬	1月中旬	1月下旬	2月上旬	2月中旬	2月下旬	3月上旬	3月中旬	3月下旬	4月上旬	4月中旬	4月下旬	5月上旬	5月中旬	5月下旬	6月上旬	6月中旬	6月下旬以降	n	%
北海道	1	0	0	0	0	2	1	0	0	0	2	2	5	5	1	1	0	2	22	100.0%
東北地方北部	0	0	0	1	0	0	0	0	3	4	2	3	1	1	0	0	1	3	19	100.0%
東北地方南部	0	0	1	1	0	1	8	6	4	12	2	2	2	1	0	1	0	1	42	100.0%
関東地方北部	0	0	0	2	5	5	10	10	13	7	1	2	0	2	0	0	0	0	57	100.0%
関東地方南部	7	6	14	26	26	47	93	63	68	42	17	6	2	3	1	1	3	7	432	100.0%
北陸地方	0	0	0	1	0	1	4	1	4	3	2	0	2	1	0	0	0	0	19	100.0%
甲信地方	0	0	0	2	1	1	2	1	1	1	2	2	1	0	0	0	1	2	17	100.0%
東海地方	3	1	3	9	7	14	20	15	19	22	3	11	3	5	1	1	0	3	140	100.0%
近畿地方	4	1	4	6	7	7	16	20	29	24	12	6	7	4	4	1	1	7	160	100.0%
中国地方	0	2	0	0	2	2	5	6	3	4	0	1	2	0	1	0	0	1	29	100.0%
四国地方	1	0	0	1	0	1	5	0	4	5	1	1	1	0	1	0	0	2	23	100.0%
九州地方	0	0	2	1	3	6	10	8	4	1	2	1	0	0	0	0	0	2	40	100.0%
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	9.1%	22.7%	22.7%	4.5%	4.5%	0.0%	9.1%	100.0%	
	0.0%	0.0%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	15.8%	21.1%	10.5%	15.8%	5.3%	5.3%	0.0%	0.0%	5.3%	15.8%	100.0%	
	0.0%	0.0%	2.4%	2.4%	0.0%	2.4%	19.0%	14.3%	9.5%	28.6%	4.8%	4.8%	4.8%	2.4%	0.0%	2.4%	0.0%	2.4%	100.0%	
	0.0%	0.0%	0.0%	3.5%	8.8%	8.8%	17.5%	17.5%	22.8%	12.3%	1.8%	3.5%	0.0%	3.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
	1.6%	1.4%	3.2%	6.0%	6.0%	10.9%	21.5%	14.6%	15.7%	9.7%	3.9%	1.4%	0.5%	0.7%	0.2%	0.2%	0.7%	1.6%	100.0%	
	0.0%	0.0%	0.0%	5.3%	0.0%	5.3%	21.1%	5.3%	21.1%	15.8%	10.5%	0.0%	10.5%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
	0.0%	0.0%	0.0%	11.8%	5.9%	5.9%	11.8%	5.9%	5.9%	5.9%	11.8%	11.8%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	11.8%	100.0%	
	2.1%	0.7%	2.1%	6.4%	5.0%	10.0%	14.3%	10.7%	13.6%	15.7%	2.1%	7.9%	2.1%	3.6%	0.7%	0.7%	0.0%	2.1%	100.0%	
	2.5%	0.6%	2.5%	3.8%	4.4%	4.4%	10.0%	12.5%	18.1%	15.0%	7.5%	3.8%	4.4%	2.5%	2.5%	0.6%	0.6%	4.4%	100.0%	
	0.0%	6.9%	0.0%	0.0%	6.9%	6.9%	17.2%	20.7%	10.3%	13.8%	0.0%	3.4%	6.9%	0.0%	3.4%	0.0%	0.0%	3.4%	100.0%	
	4.3%	0.0%	0.0%	4.3%	0.0%	4.3%	21.7%	0.0%	17.4%	21.7%	4.3%	4.3%	4.3%	0.0%	4.3%	0.0%	0.0%	8.7%	100.0%	
	0.0%	0.0%	5.0%	2.5%	7.5%	15.0%	25.0%	20.0%	10.0%	2.5%	5.0%	2.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%	100.0%	

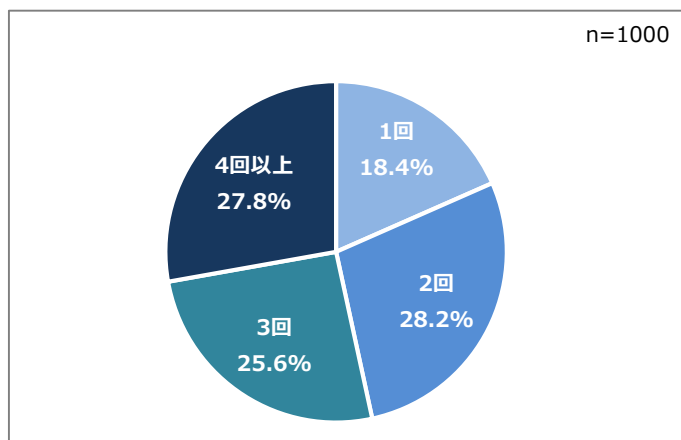


## 2016年春の病院・クリニックの受診状況

### 【Q5】2016年春の花粉症シーズン、花粉症治療を目的に病院・クリニックを何回受診しましたか。

「2回」が最も多く28.2%、次いで「4回以上」の27.8%だった。

n=1000		(SA)
	n	%
1回	184	18.4%
2回	282	28.2%
3回	256	25.6%
4回以上	278	27.8%
総数	1000	100.0%



### 【Q6-1】花粉症治療を目的とした、最初の受診日を教えてください。

「2月上旬」が最も多く18.4%。次いで、「1月上旬」（17.3%）、「1月下旬」（12.0%）だった。患者の半数が「2月上旬」までにシーズン1回目の医療機関受診を済ませている。

<地域ブロック別>

【北海道】 ※2016年の飛散開始日は3月18日  
「4月上旬」が最も多く22.7%。  
患者の半数は「4月上旬」までにシーズン1回目の受診を済ませている

【東北北部】 ※2016年の飛散開始日は3月5日  
「3月上旬」が最も多く26.3%。  
患者の半数は「3月中旬」までにシーズン1回目の受診を済ませている

【東北南部】 ※2016年の飛散開始日は2月21日  
「2月下旬」が最も多く23.8%。  
患者の半数は「2月下旬」までにシーズン1回目の受診を済ませている

【関東北部】 ※2016年の飛散開始日は2月10日  
「2月中旬」が最も多く22.8%。  
患者の半数は「2月上旬」までにシーズン1回目の受診を済ませている

【関東南部】 ※2016年の飛散開始日は1月19日  
「1月上旬」が最も多く20.6%。  
患者の半数は「2月上旬」までにシーズン1回目の受診を済ませている

【北陸】 ※2016年の飛散開始日は2月18日  
「2月中旬」が最も多く21.1%。  
患者の半数は「2月中旬」までにシーズン1回目の受診を済ませている

【甲信】 ※2016年の飛散開始日は2月14日  
「2月上旬」が最も多く29.4%。  
患者の半数は「2月上旬」までにシーズン1回目の受診を済ませている

【東海】 ※2016年の飛散開始日は2月13日  
「1月上旬」が最も多く21.4%。  
患者の半数は「2月上旬」までにシーズン1回目の受診を済ませている

【近畿】 ※2016年の飛散開始日は2月13日  
「2月上旬」が最も多く18.8%。  
患者の半数は「2月中旬」までにシーズン1回目の受診を済ませている

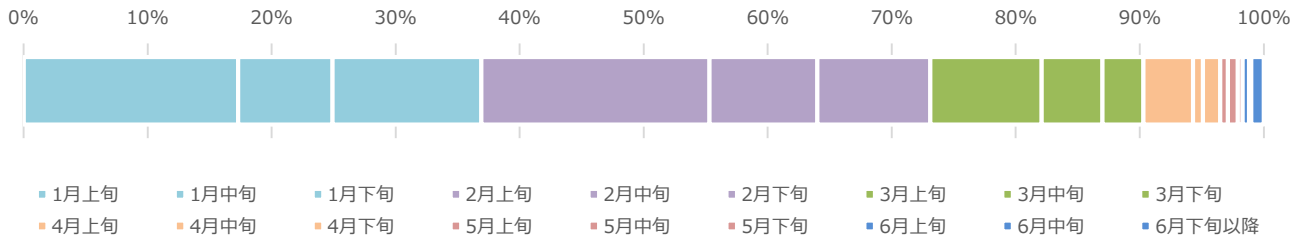
【中国】 ※2016年の飛散開始日は2月8日  
「1月上旬」が最も多く24.1%。  
患者の半数は「2月上旬」までにシーズン1回目の受診を済ませている

【四国】 ※2016年の飛散開始日は2月3日  
「2月上旬」が最も多く30.4%。  
患者の半数は「2月上旬」までにシーズン1回目の受診を済ませている

【九州】 ※2016年の飛散開始日は2月10日  
「2月上旬」が最も多く22.5%。  
患者の半数は「2月上旬」までにシーズン1回目の受診を済ませている

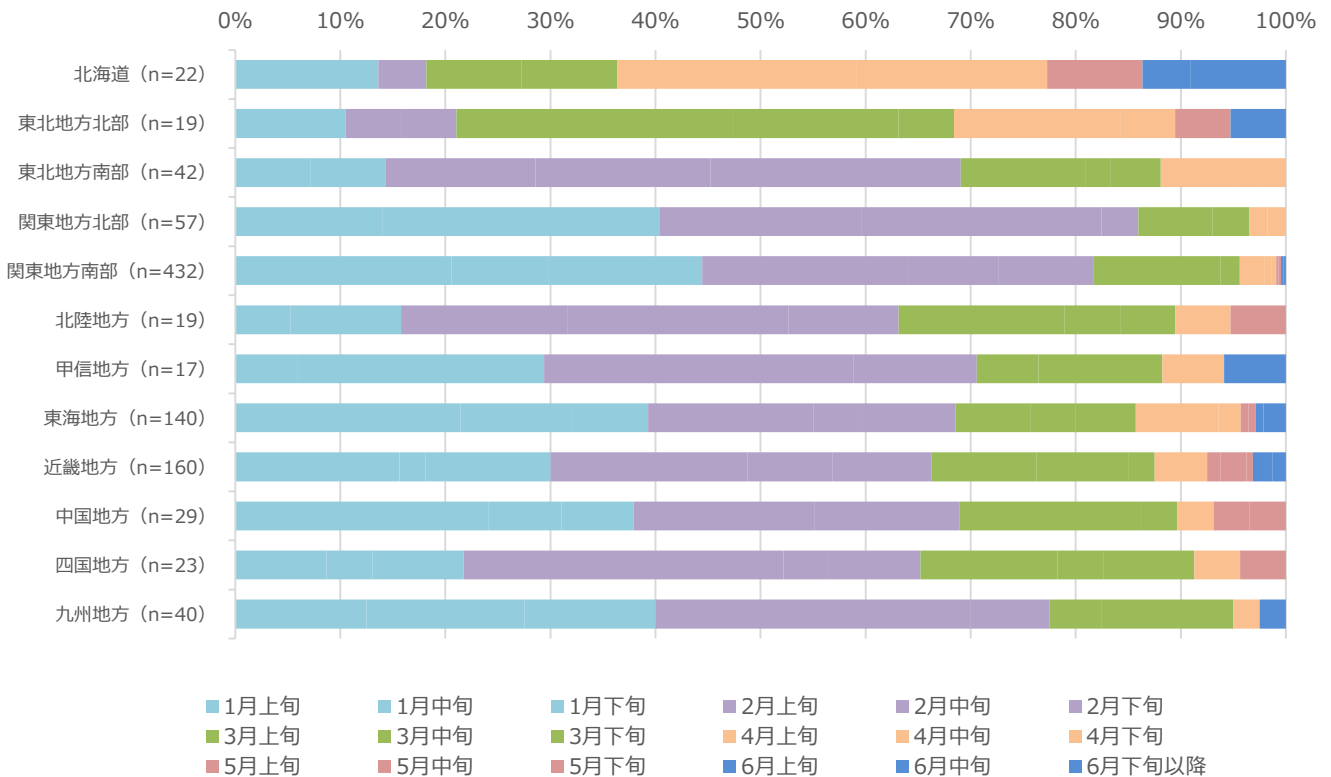
※各地域の飛散開始日については環境省発表のデータに基づく

n=1000		(SA)	
	n	%	
1月上旬	173	17.3%	
1月中旬	76	7.6%	
1月下旬	120	12.0%	
2月上旬	184	18.4%	
2月中旬	87	8.7%	
2月下旬	91	9.1%	
3月上旬	90	9.0%	
3月中旬	49	4.9%	
3月下旬	33	3.3%	
4月上旬	40	4.0%	
4月中旬	8	0.8%	
4月下旬	14	1.4%	
5月上旬	6	0.6%	
5月中旬	8	0.8%	
5月下旬	4	0.4%	
6月上旬	5	0.5%	
6月中旬	2	0.2%	
6月下旬以降	10	1.0%	
総数	1000	100.0%	



「シーズン1回目の受診」×「地域ブロック」

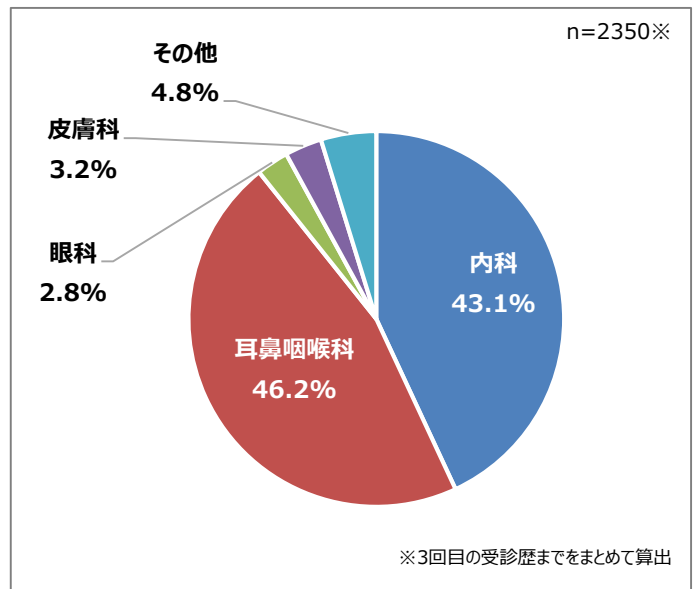
	1月上旬	1月中旬	1月下旬	2月上旬	2月中旬	2月下旬	3月上旬	3月中旬	3月下旬	4月上旬	4月中旬	4月下旬	5月上旬	5月中旬	5月下旬	6月上旬	6月中旬	6月下旬以降	n
北海道	3	0	0	0	1	0	1	1	2	5	0	4	2	0	0	1	0	2	22
	13.6%	0.0%	0.0%	0.0%	4.5%	0.0%	4.5%	4.5%	9.1%	22.7%	0.0%	18.2%	9.1%	0.0%	0.0%	4.5%	0.0%	9.1%	100.0%
東北地方北部	0	2	0	1	0	1	5	3	1	3	0	1	0	0	1	0	0	1	19
	0.0%	10.5%	0.0%	5.3%	0.0%	5.3%	26.3%	15.8%	5.3%	15.8%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	5.3%	100.0%
東北地方南部	3	0	3	6	7	10	5	1	2	3	1	1	0	0	0	0	0	0	42
	7.1%	0.0%	7.1%	14.3%	16.7%	23.8%	11.9%	2.4%	4.8%	7.1%	2.4%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
関東地方北部	8	5	10	11	13	2	4	0	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	57
	14.0%	8.8%	17.5%	19.3%	22.8%	3.5%	7.0%	0.0%	3.5%	0.0%	1.8%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
関東地方南部	89	40	63	85	37	39	35	17	8	10	3	2	0	1	1	1	0	1	432
	20.6%	9.3%	14.6%	19.7%	8.6%	9.0%	8.1%	3.9%	1.9%	2.3%	0.7%	0.5%	0.0%	0.2%	0.2%	0.2%	0.0%	0.2%	100.0%
北陸地方	1	0	2	3	4	2	3	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	19
	5.3%	0.0%	10.5%	15.8%	21.1%	10.5%	15.8%	5.3%	5.3%	5.3%	0.0%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
甲信地方	0	1	4	5	1	1	1	0	2	0	0	1	0	0	0	0	1	0	17
	0.0%	5.9%	23.5%	29.4%	5.9%	5.9%	5.9%	0.0%	11.8%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%	100.0%
東海地方	30	15	10	22	6	13	10	6	8	8	3	3	1	1	0	1	0	3	140
	21.4%	10.7%	7.1%	15.7%	4.3%	9.3%	7.1%	4.3%	5.7%	5.7%	2.1%	2.1%	0.7%	0.7%	0.0%	0.7%	0.0%	2.1%	100.0%
近畿地方	25	4	19	30	13	15	16	14	4	8	0	0	2	4	1	2	1	2	160
	15.6%	2.5%	11.9%	18.8%	8.1%	9.4%	10.0%	8.8%	2.5%	5.0%	0.0%	0.0%	1.3%	2.5%	0.6%	1.3%	0.6%	1.3%	100.0%
中国地方	7	2	2	5	1	3	5	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	29
	24.1%	6.9%	6.9%	17.2%	3.4%	10.3%	17.2%	0.0%	3.4%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
四国地方	2	1	2	7	1	2	3	1	2	0	0	1	0	1	0	0	0	0	23
	8.7%	4.3%	8.7%	30.4%	4.3%	8.7%	13.0%	4.3%	8.7%	0.0%	0.0%	4.3%	0.0%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
九州地方	5	6	5	9	3	3	2	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	40
	12.5%	15.0%	12.5%	22.5%	7.5%	7.5%	5.0%	12.5%	0.0%	2.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.5%	100.0%



## 【Q6-2】受診科目を教えてください。

「耳鼻咽喉科」が最も多く46.2%。「内科」は43.1%だった。

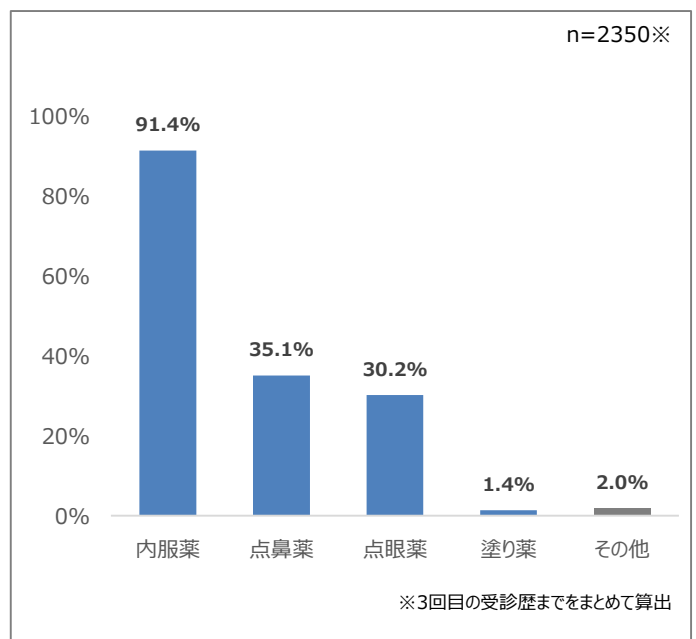
(SA)					
	1回目	2回目	3回目	n	%
内科	431	355	226	1012	43.1%
耳鼻咽喉科	451	382	253	1086	46.2%
眼科	34	19	12	65	2.8%
皮膚科	32	23	20	75	3.2%
その他	52	37	23	112	4.8%
総数	1000	816	534	2350	100.0%



## 【Q6-3】処方された薬剤の種類を教えてください。【複数回答】

内服薬が最も多く、91.4%だった。1人平均2.3の薬剤を処方されている。

(MA)					
	1回目	2回目	3回目	n	%
内服薬	905	743	499	2147	91.4%
点鼻薬	392	267	166	825	35.1%
点眼薬	357	226	126	709	30.2%
塗り薬	15	10	7	32	1.4%
その他	20	14	12	46	2.0%
総数	1000	816	534	2350	160.0%

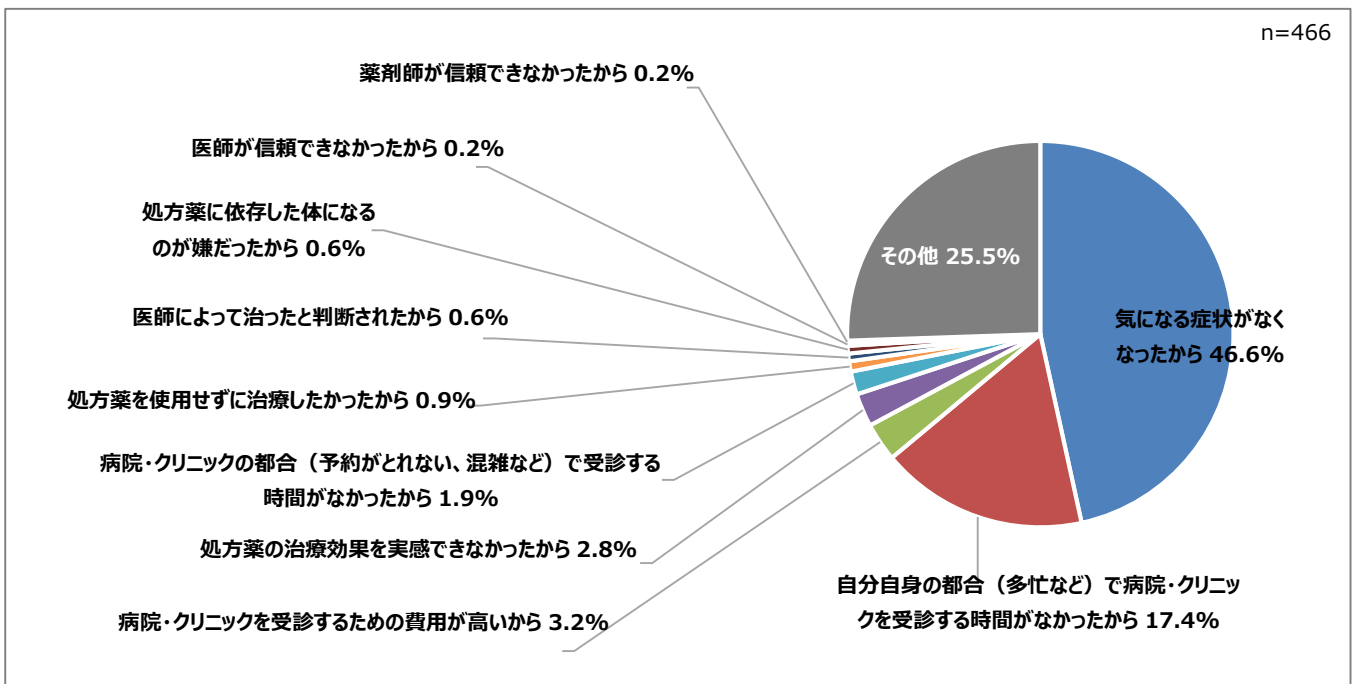


**【Q7】病院・クリニックの受診が「1回」または「2回」となった理由は何ですか。最も当てはまるものを選んでください。**

※Q5で受診回数を「1回」または「2回」と回答した人のみ回答

「気になる症状がなくなったから」が最も多く46.6%。次いで、「自分自身の都合で病院・クリニックを受診する時間がなかったから」（17.4%）だった。その他の理由には、「90日分のお薬を処方してもらっている」など長期処方を理由に挙げる意見が多かった。

	(SA)	
	n	%
気になる症状がなくなったから	217	46.6%
自分自身の都合（多忙など）で病院・クリニックを受診する時間がなかったから	81	17.4%
病院・クリニックを受診するための費用が高いから	15	3.2%
処方薬の治療効果を実感できなかったから	13	2.8%
病院・クリニックの都合（予約がとれない、混雑など）で受診する時間がなかったから	9	1.9%
処方薬を使用せずに治療したかったから	4	0.9%
医師によって治ったと判断されたから	3	0.6%
処方薬に依存した体になるのが嫌だったから	3	0.6%
医師が信頼できなかったから	1	0.2%
薬剤師が信頼できなかったから	1	0.2%
その他	119	25.5%
総数	466	100.0%

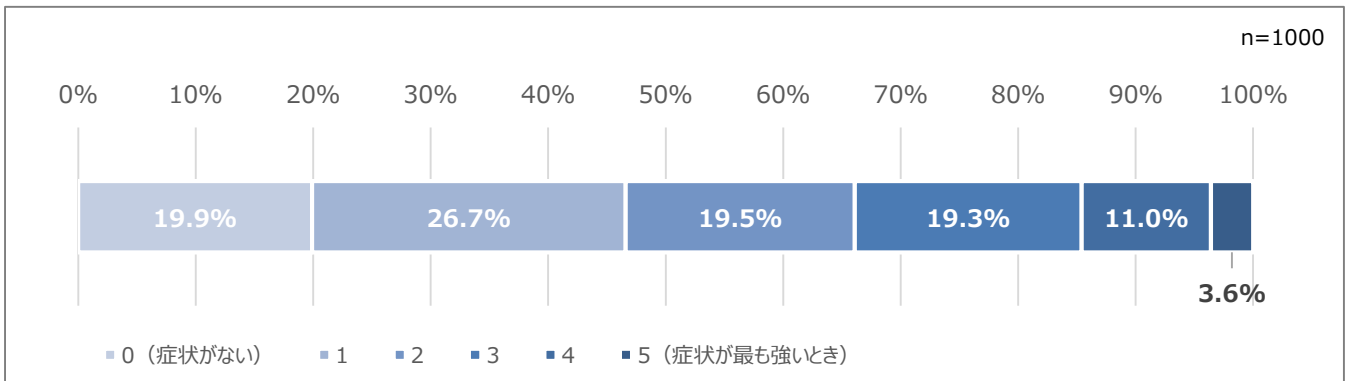


**【Q8】花粉症治療を目的に病院・クリニックの受診を検討するのはどの段階からですか。**

症状がまったくないときを「0」、最も強いとき（ピーク）を「5」とした場合の段階を選んでください。

「1」が最も多く26.7%、次いで症状がない「0」が19.9%だった。全回答の指数の平均は1.86だった。

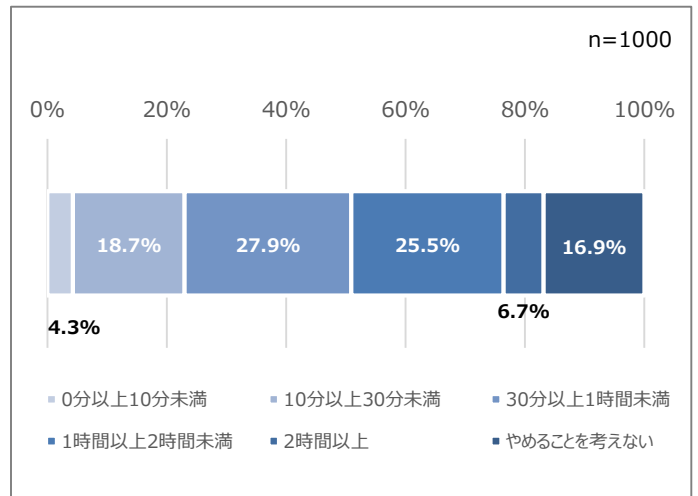
	(SA)	
	n	%
0 (症状がない)	199	19.9%
1	267	26.7%
2	195	19.5%
3	193	19.3%
4	110	11.0%
5 (症状が最も強いとき)	36	3.6%
総数	1000	100.0%



**【Q9】花粉症治療を目的に病院・クリニックを受診したとき、診察までの待ち時間がどれくらいかかると、その病院・クリニックの次の受診をやめることを考えますか。**

「30分以上1時間未満」が最も多く27.9%、次いで「1時間以上2時間未満」（25.5%）、「10分以上30分未満」（18.7%）の順となった。

	(SA)	
	n	%
0分以上10分未満	43	4.3%
10分以上30分未満	187	18.7%
30分以上1時間未満	279	27.9%
1時間以上2時間未満	255	25.5%
2時間以上	67	6.7%
やめることを考えない (排他)	169	16.9%
総数	1000	100.0%

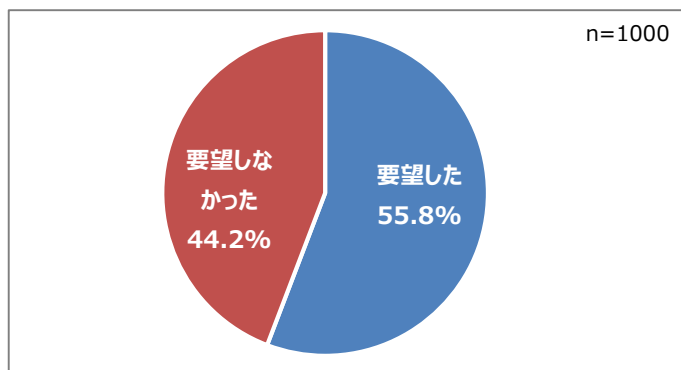




**【Q10-1】2016年に花粉症治療を目的に最初に病院・クリニックを受診したとき、花粉症に対する処方薬について医師または薬剤師に要望を伝えましたか。**

55.8%が花粉症に対する処方薬について、医師または薬剤師に要望を伝えていた。

n=1000		(SA)	
	n	%	
要望した	558	55.8%	
要望しなかった	442	44.2%	
総数	1000	100.0%	

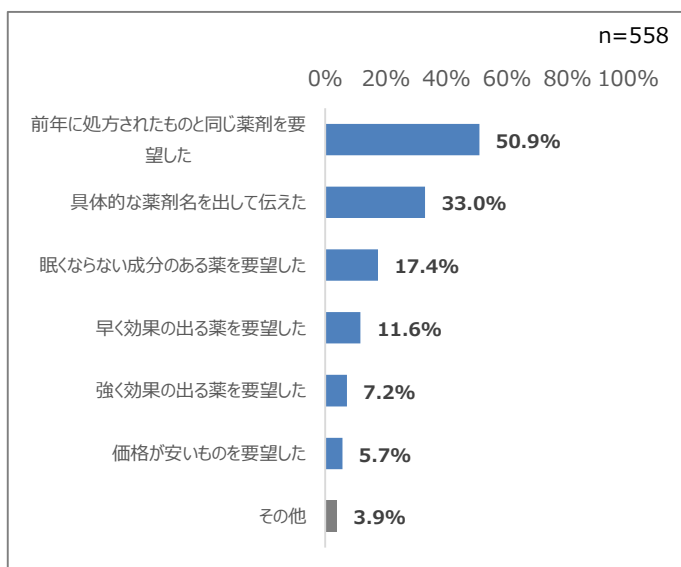


**【Q10-2】どんな要望を伝えましたか。当てはまるものをすべて選んでください。【複数回答】**

※Q10-1で「要望した」と回答した人のみ回答

50.9%が「前年に処方されたものと同じ薬剤」を要望した。次いで、「具体的な薬剤名を出して」（33.0%）、「眠くならない成分のある薬」（17.4%）となった。

n=558		(MA)	
	n	%	
前年に処方されたものと同じ薬剤を要望した	284	50.9%	
具体的な薬剤名を出して伝えた	184	33.0%	
眠くならない成分のある薬を要望した	97	17.4%	
早く効果の出る薬を要望した	65	11.6%	
強く効果の出る薬を要望した	40	7.2%	
価格が安いものを要望した	32	5.7%	
その他	22	3.9%	
総数	558	129.7%	

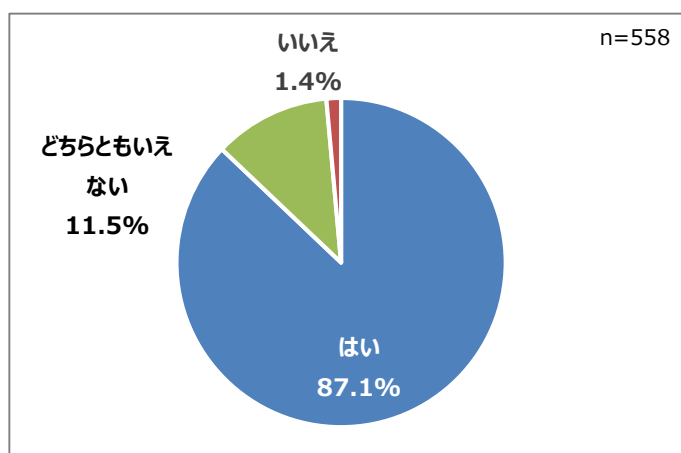


**【Q11】2016年春の花粉症シーズンの花粉症に対する処方薬について、医師または薬剤師に伝えた要望に沿ったものが処方されましたか。**

※Q10-1で「要望した」と回答した人のみ回答

87.1%が「要望に沿った薬が処方された」と回答した。

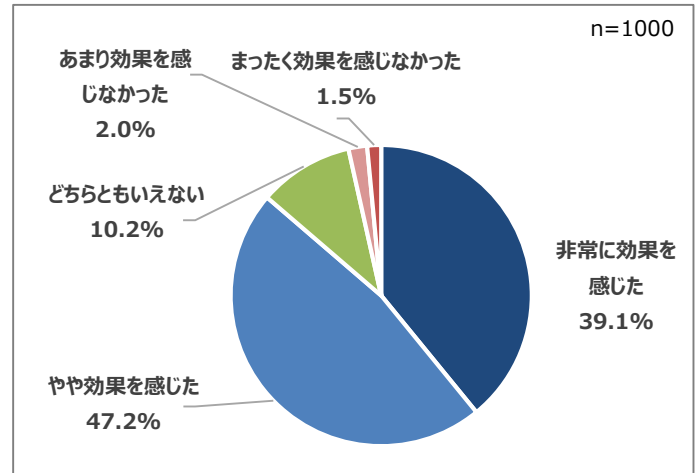
n=558		(SA)	
	n	%	
はい	486	87.1%	
どちらともいえない	64	11.5%	
いいえ	8	1.4%	
総数	558	100.0%	



## 【Q12】2016年春の花粉症シーズン花粉症に対する処方薬の効果は感じられましたか。

約9割が「非常に効果を感じた」「やや効果を感じた」と回答した。

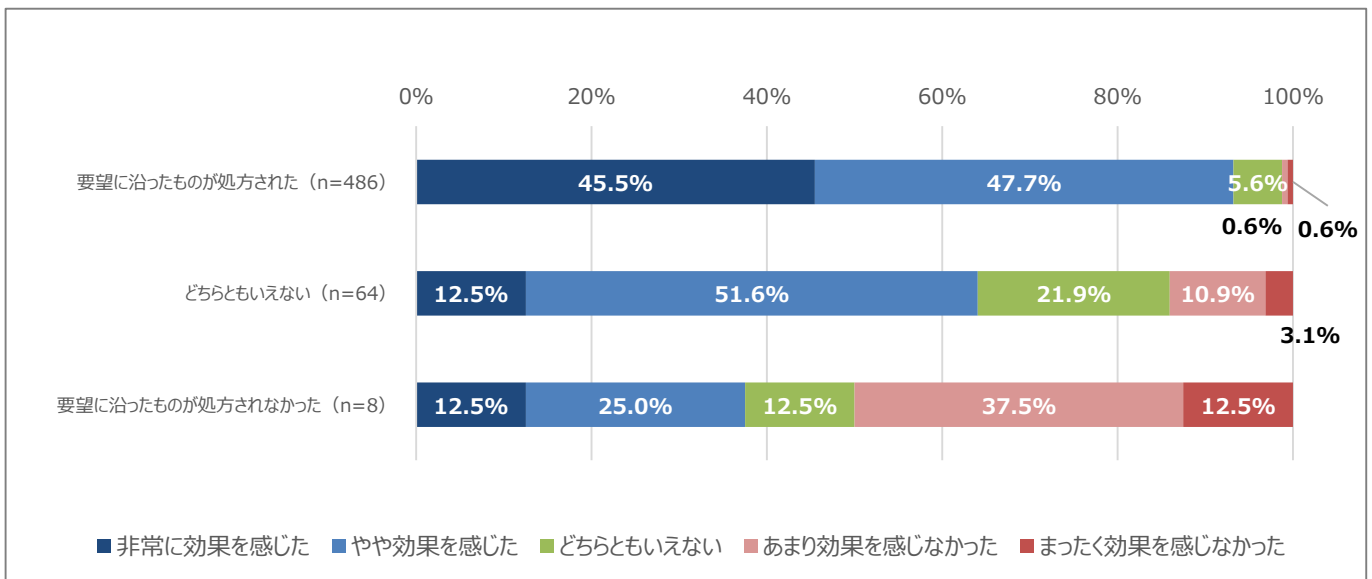
	(SA)	
	n	%
非常に効果を感じた	391	39.1%
やや効果を感じた	472	47.2%
どちらともいえない	102	10.2%
あまり効果を感じなかった	20	2.0%
まったく効果を感じなかった	15	1.5%
総数	1000	100.0%



### 「要望に沿ったものが処方されたか」×「処方薬の効果実感」

「非常に効果を感じた」「やや効果を感じた」割合は、「要望に沿ったものが処方された」層では93.2%、「どちらともいえない」層では64.1%、「要望に沿ったものが処方されなかった」層では37.5%だった。

	非常に効果を感じた	やや効果を感じた	どちらともいえない	あまり効果を感じなかった	まったく効果を感じなかった	n	%
要望に沿ったものが処方された	221	232	27	3	3	486	
	45.5%	47.7%	5.6%	0.6%	0.6%	100.0%	
どちらともいえない	8	33	14	7	2	64	
	12.5%	51.6%	21.9%	10.9%	3.1%	100.0%	
要望に沿ったものが処方されなかった	1	2	1	3	1	8	
	12.5%	25.0%	12.5%	37.5%	12.5%	100.0%	

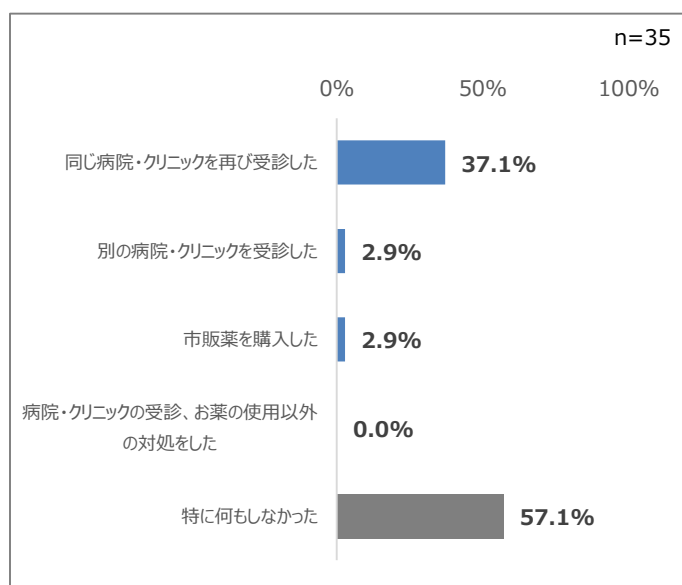


**【Q13】2016年春の花粉症シーズンに花粉症に対する処方薬の効果が感じられなかったとき、どのように対処しましたか。【複数回答】**

※Q12で「あまり効果を感じなかった」「まったく効果を感じなかった」と回答した人のみ回答

「特に何もしなかった」が最も多く57.1%。次いで、「同じ病院・クリニックを再び受診した」が37.1%だった。

n=35	(MA)	
	n	%
同じ病院・クリニックを再び受診した	13	37.1%
別の病院・クリニックを受診した	1	2.9%
市販薬を購入した	1	2.9%
病院・クリニックの受診、お薬の使用以外の対処をした	0	0.0%
特に何もしなかった（排他）	20	57.1%
総数	35	100.0%

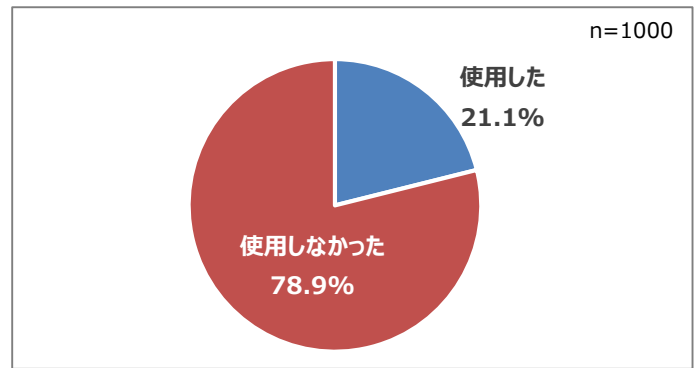


## 市販薬の使用・併用実態

【Q14-1】2016年に花粉症治療を目的に病院・クリニックを受診する前についてお聞きます。ドラッグストアや薬局で花粉症に対する市販薬を購入して使用しましたか。

21.1%が受診前に市販薬を使用したと回答した。

n=1000		(SA)	
	n	%	
使用した	211	21.1%	
使用しなかった	789	78.9%	
総数	1000	100.0%	



### 「市販薬を使用したか」×「花粉症の症状での受診年数」

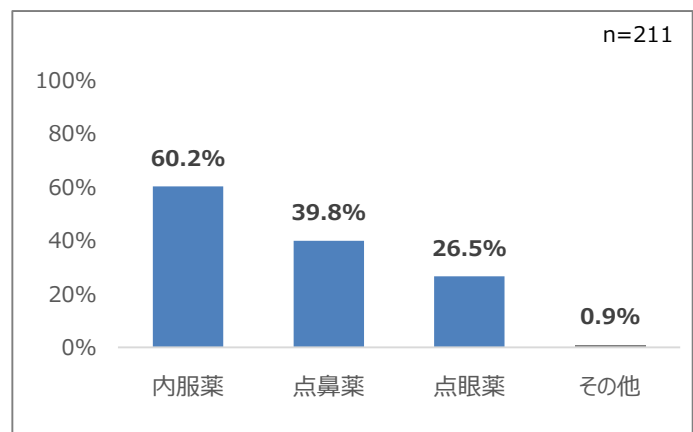
	使用した	使用しなかった	n
			%
1～5年目	35	107	142
	24.6%	75.4%	100.0%
6～10年目	50	186	236
	21.2%	78.8%	100.0%
11年目以上	126	496	622
	20.3%	79.7%	100.0%

### 【Q14-2】使用した市販薬の種類を教えてください。【複数回答】

※Q14-1で「市販薬を使用した」と回答した人のみ回答

「内服薬」が最も多く60.2%、「点鼻薬」は39.8%、「点眼薬」は26.5%だった。

n=211		(MA)	
	n	%	
内服薬	127	60.2%	
点鼻薬	84	39.8%	
点眼薬	56	26.5%	
その他	2	0.9%	
総数	211	127.5%	



### 「使用した市販薬」×「花粉症の症状での受診年数」

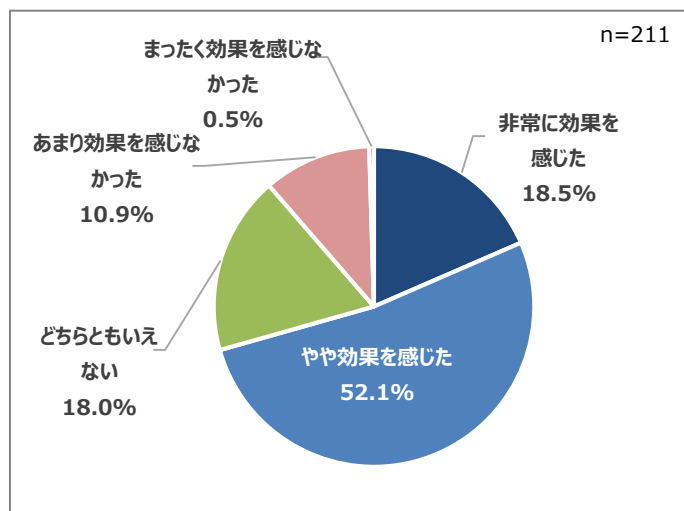
	内服薬	点鼻薬	点眼薬	その他	n
					%
1～5年目	21	15	8	2	46
	45.7%	32.6%	17.4%	4.3%	100.0%
6～10年目	34	16	10	2	62
	54.8%	25.8%	16.1%	3.2%	100.0%
11年目以上	72	53	38	3	166
	43.4%	31.9%	22.9%	1.8%	100.0%

**【Q15】2016年に花粉症治療を目的に病院・クリニックを受診する前に使用した花粉症に対する市販薬の効果は感じられましたか。**

※Q14-1で「市販薬を使用した」と回答した人のみ回答

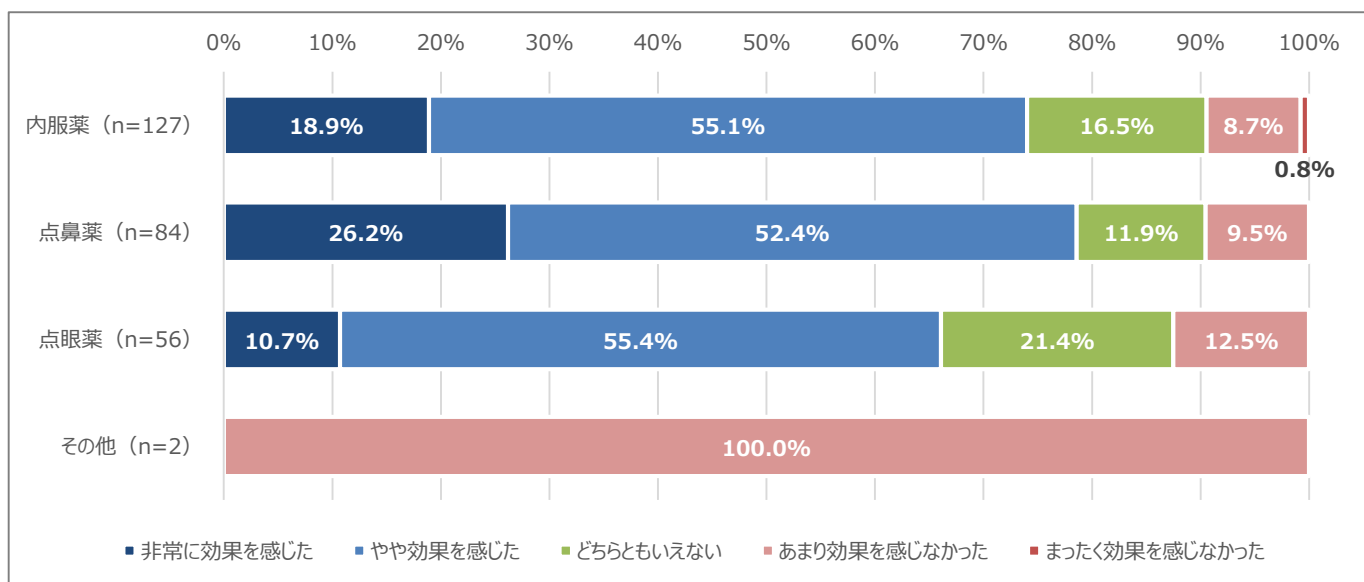
70.6%の患者が「非常に効果を感じた」「やや効果を感じた」と回答した。薬剤別では「点鼻薬」に効果を感じている患者が最も多く78.6%。「内服薬」は74.0%だった。

n=211		(SA)	
	n	%	
非常に効果を感じた	39	18.5%	
やや効果を感じた	110	52.1%	
どちらともいえない	38	18.0%	
あまり効果を感じなかった	23	10.9%	
まったく効果を感じなかった	1	0.5%	
総数	211	100.0%	



**「使用した市販薬の種類」×「市販薬の効果実感」**

	非常に効果を感じた	やや効果を感じた	どちらともいえない	あまり効果を感じなかった	まったく効果を感じなかった	n %
内服薬	24 18.9%	70 55.1%	21 16.5%	11 8.7%	1 0.8%	127 100.0%
点鼻薬	22 26.2%	44 52.4%	10 11.9%	8 9.5%	0 0.0%	84 100.0%
点眼薬	6 10.7%	31 55.4%	12 21.4%	7 12.5%	0 0.0%	56 100.0%
その他	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	2 100.0%

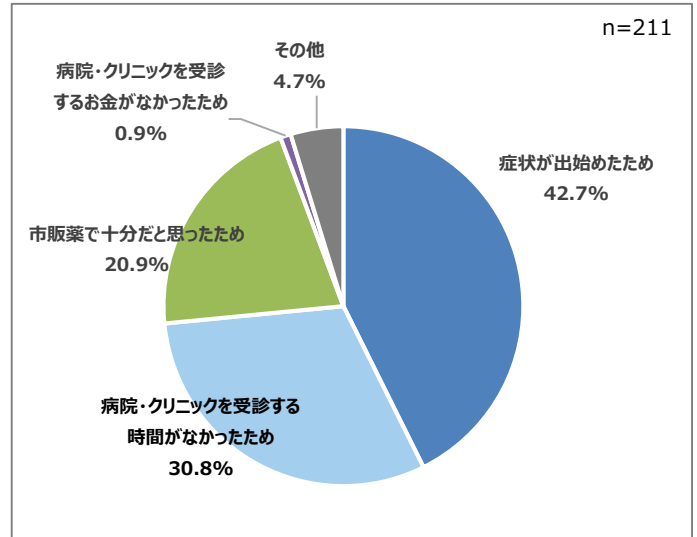


**【Q16】花粉症治療を目的に病院・クリニックを受診する前に花粉症に対する市販薬を使用した理由は何ですか。**

※Q14-1で「市販薬を使用した」と回答した人のみ回答

「症状が出始めたため」が最も多く42.7%。次いで、「病院・クリニックを受診する時間がなかったため」30.8%、「市販薬で十分だと思ったため」20.9%と続いた。

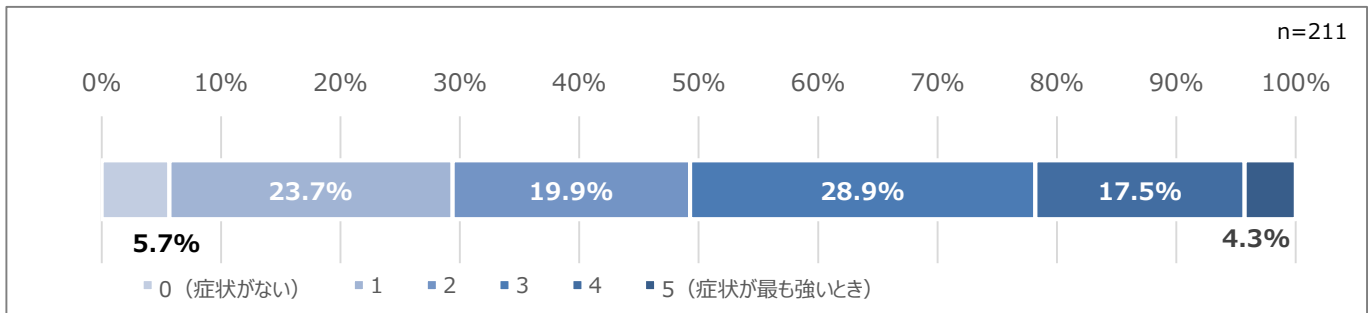
	n=211 (SA)	
	n	%
症状が出始めたため	90	42.7%
病院・クリニックを受診する時間がなかったため	65	30.8%
市販薬で十分だと思ったため	44	20.9%
病院・クリニックを受診するお金がなかったため	2	0.9%
その他	10	4.7%
総数	211	100.0%



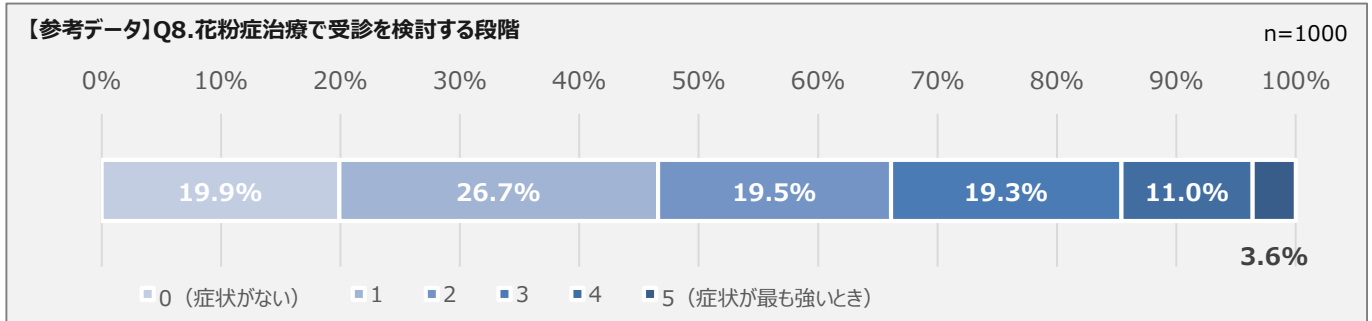
**【Q17】市販薬の使用を検討するのはどの段階からですか。症状がまったくないときを「0」、最も強いとき（ピーク）を「5」とした場合の段階を選んでください。**

「3」が最も多く28.9%、次いで「1」が23.7%だった。全回答の指数の平均は2.42だった。

	n=211 (SA)	
	n	%
0 (症状がない)	12	5.7%
1	50	23.7%
2	42	19.9%
3	61	28.9%
4	37	17.5%
5 (症状が最も強いとき)	9	4.3%
総数	211	100.0%



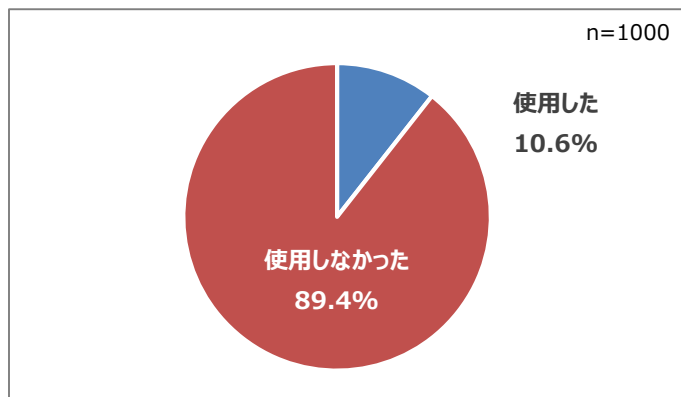
**【参考データ】Q8.花粉症治療で受診を検討する段階**



**【Q18-1】2016年に花粉症治療を目的に病院・クリニックを受診した後についてお聞きます。病院・クリニックで処方された薬（処方薬）のほかに、花粉症に対する市販薬を使用しましたか。**

病院・クリニックを受診した後も10.6%の患者は市販薬を使用していた。

n=1000		(SA)
	n	%
使用した	106	10.6%
使用しなかった	894	89.4%
総数	1000	100.0%

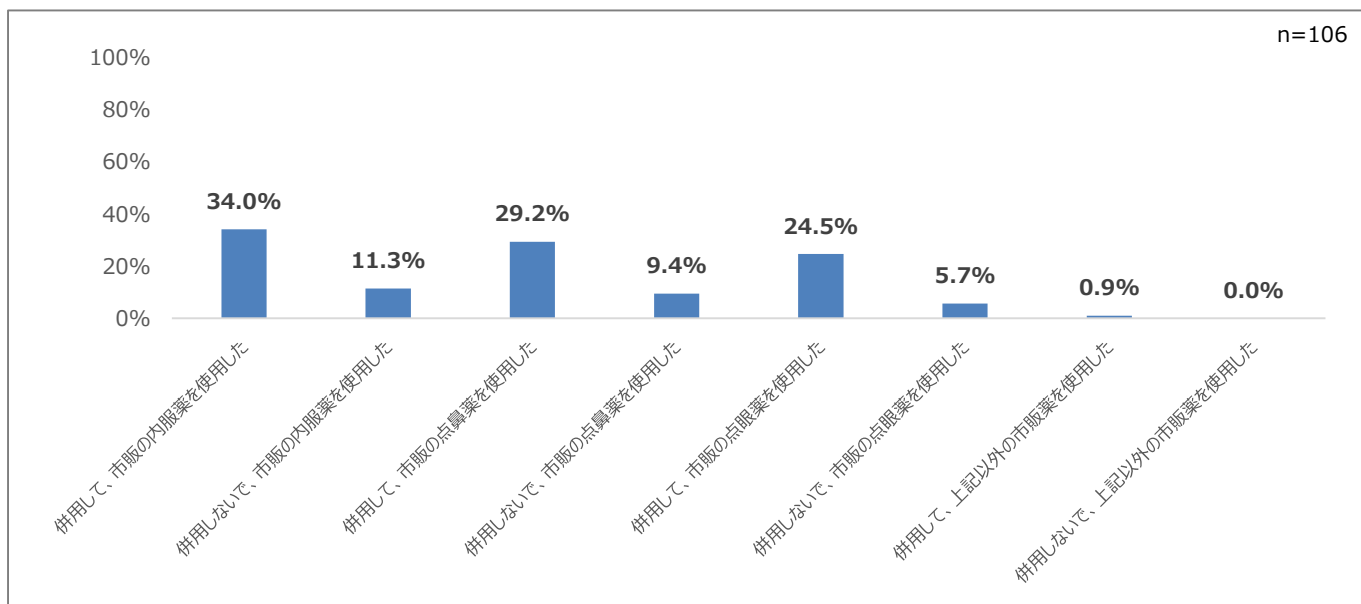


**【Q18-2】使用した市販薬について教えてください。【複数選択】**

※Q18-1で「市販薬を使用した」と回答した人のみ回答

34.0%が市販の内服薬を、29.2%が市販の点鼻薬を、24.5%が市販の点眼薬を、処方薬と併用して使用していた。

n=106		(MA)
	n	%
併用して、市販の内服薬を使用した	36	34.0%
併用しないで、市販の内服薬を使用した	12	11.3%
併用して、市販の点鼻薬を使用した	31	29.2%
併用しないで、市販の点鼻薬を使用した	10	9.4%
併用して、市販の点眼薬を使用した	26	24.5%
併用しないで、市販の点眼薬を使用した	6	5.7%
併用して、上記以外の市販薬を使用した	1	0.9%
併用しないで、上記以外の市販薬を使用した	0	0.0%
総数	106	115.1%



## 薬剤種類別

### 内服薬

n=48		
	n	%
併用して、市販の内服薬を使用した	36	75.0%
併用しないで、市販の内服薬を使用した	12	25.0%
総数	48	100.0%

### 点眼薬

n=32		
	n	%
併用して、市販の点眼薬を使用した	26	81.3%
併用しないで、市販の点眼薬を使用した	6	18.8%
総数	32	100.0%

### 点鼻薬

n=41		
	n	%
併用して、市販の点鼻薬を使用した	31	75.6%
併用しないで、市販の点鼻薬を使用した	10	24.4%
総数	41	100.0%

### その他

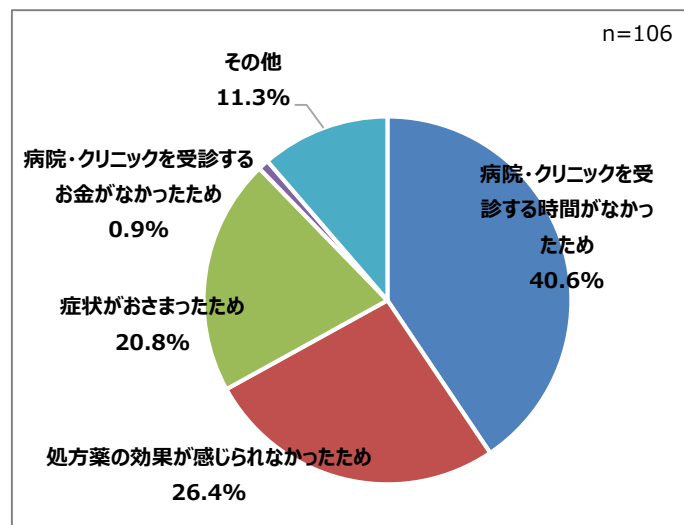
n=1		
	n	%
併用して、その他の市販薬を使用した	1	100.0%
併用しないで、その他の市販薬を使用した	0	0.0%
総数	1	100.0%

## 【Q19】花粉症治療を目的に病院・クリニックを受診した後に花粉症に対する市販薬を使用した理由として、最も当てはまるものは何ですか？

### ※Q18-1で「市販薬を使用した」と回答した人のみ回答

「病院・クリニックを受診する時間がなかったため」が最も多く、40.6%。次いで、「処方薬の効果が感じられなかったため」が26.4%と続いた。

n=106 (SA)		
	n	%
病院・クリニックを受診する時間がなかったため	43	40.6%
処方薬の効果が感じられなかったため	28	26.4%
症状がおさまったため	22	20.8%
病院・クリニックを受診するお金がなかったため	1	0.9%
その他	12	11.3%
総数	106	100.0%

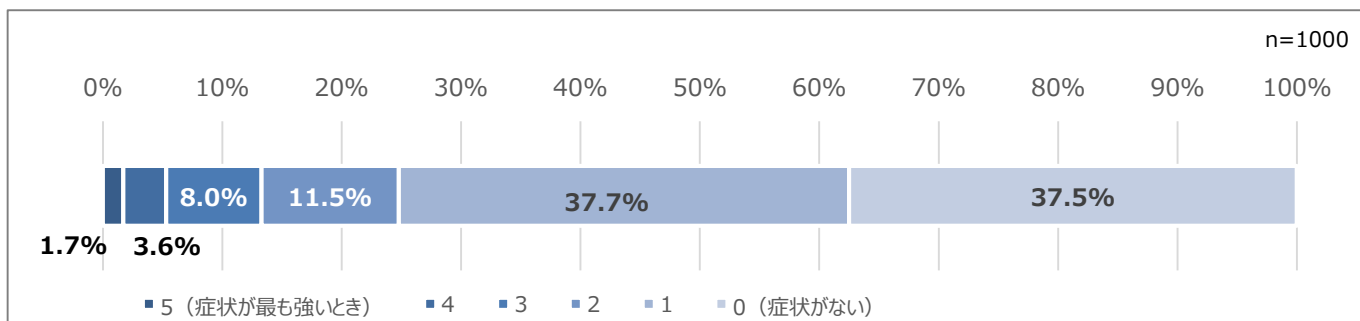




【Q20】花粉症の症状が最も強いとき（ピーク）を過ぎて、お薬（処方薬、市販薬）の使用を中止しようと検討するのはどの段階ですか。最も強いとき（ピーク）を「5」、症状がまったくないときを「0」とした場合の段階を選んでください。

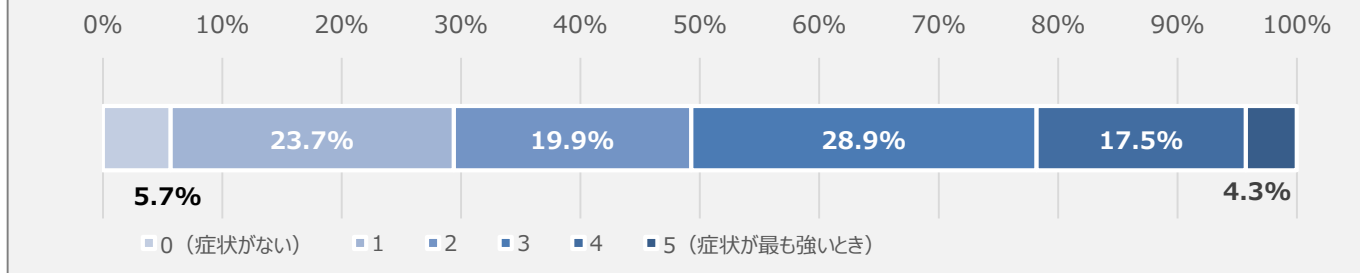
「1」が最も多く37.7%、次いで「0」が37.5%だった。全回答の指数の平均は1.08だった。

	n	%
5（症状が最も強いとき）	17	1.7%
4	36	3.6%
3	80	8.0%
2	115	11.5%
1	377	37.7%
0（症状がない）	375	37.5%
総数	1000	100.0%



【参考データ】Q17.市販薬の使用を検討する段階

n=211

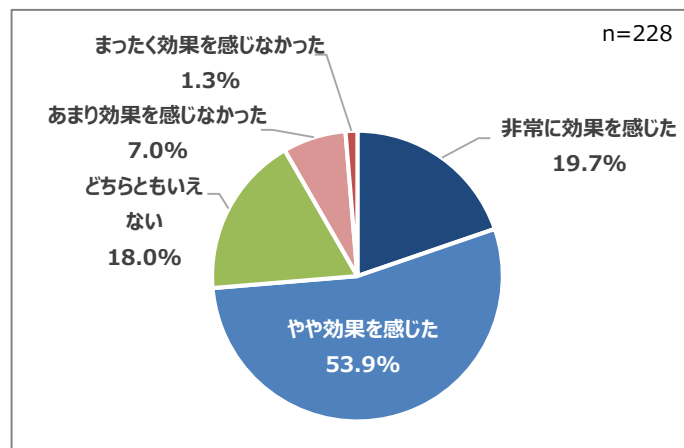


【Q21】鼻炎に対する市販薬の効果は感じられましたか。

※Q14-1、Q18-1、Q31-1で「市販薬を使用した」と答えた人のみ回答

73.6%が「非常に効果を感じた」「やや効果を感じた」と回答した。

	n	%
非常に効果を感じた	45	19.7%
やや効果を感じた	123	53.9%
どちらともいえない	41	18.0%
あまり効果を感じなかった	16	7.0%
まったく効果を感じなかった	3	1.3%
総数	228	100.0%

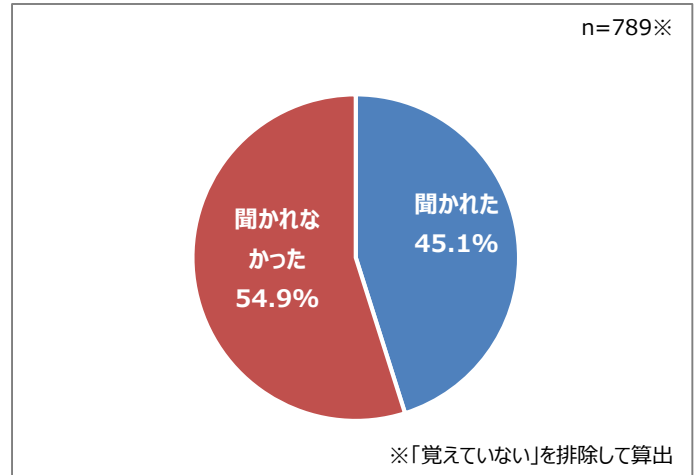


## 受診時の市販薬使用に関するコミュニケーション

【Q22-1】2016年に花粉症治療を目的に最初に病院・クリニックを受診したとき、医師等から市販薬を使用しているかどうかについて聞かれましたか。

半数以上の患者が「医師等から市販薬を使用しているかどうか」聞かれなかったと回答した。

n=1000		(SA)	
	n	%	
聞かれた	356	35.6%	
聞かれなかった	433	43.3%	
覚えていない	211	21.1%	
総数	1000	100.0%	



※「覚えていない」を除外して算出

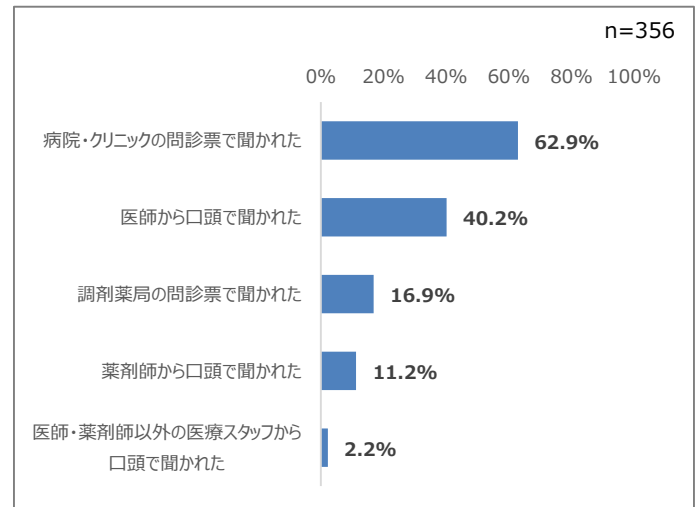
n=789		(SA)	
	n	%	
聞かれた	356	45.1%	
聞かれなかった	433	54.9%	
総数	789	100.0%	

【Q22-2】どこで聞かれましたか。当てはまるものをすべて選んでください。【複数回答】

※Q22-1で「聞かれた」と回答した人のみ回答

「病院・クリニックの問診票で聞かれた」が最も多く62.9%だった。次いで、「医師から口頭で聞かれた」(40.2%)だった。

n=356		(MA)	
	n	%	
病院・クリニックの問診票で聞かれた	224	62.9%	
医師から口頭で聞かれた	143	40.2%	
調剤薬局の問診票で聞かれた	60	16.9%	
薬剤師から口頭で聞かれた	40	11.2%	
医師・薬剤師以外の医療スタッフから口頭で聞かれた	8	2.2%	
総数	356	133.4%	

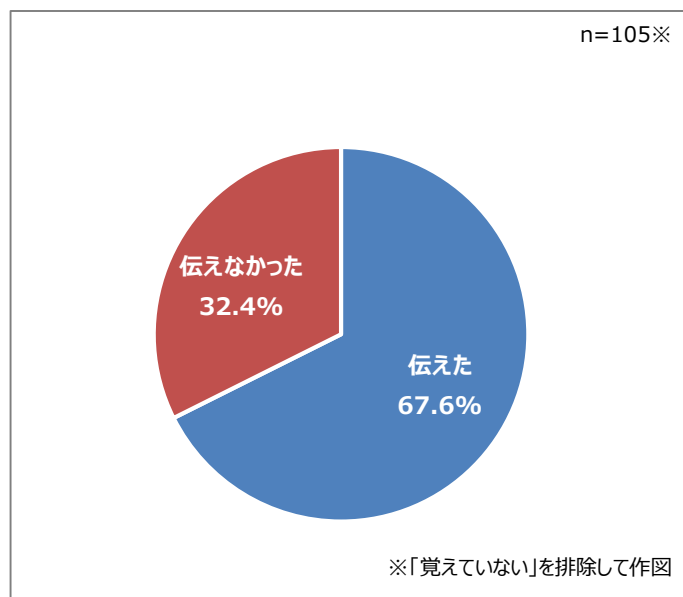


**【Q23-1】2016年に花粉症治療を目的に最初に病院・クリニックを受診したとき、市販の「内服薬」を飲んだことを医師等に伝えましたか。**

※Q14-2で市販の「内服薬」を使用したと回答した人のみ回答

約3人に2人が「内服薬の使用」を医師等に伝えていた。

n=127		(SA)	
	n	%	
伝えた	71	55.9%	
伝えなかった	34	26.8%	
覚えていない	22	17.3%	
総数	127	100.0%	



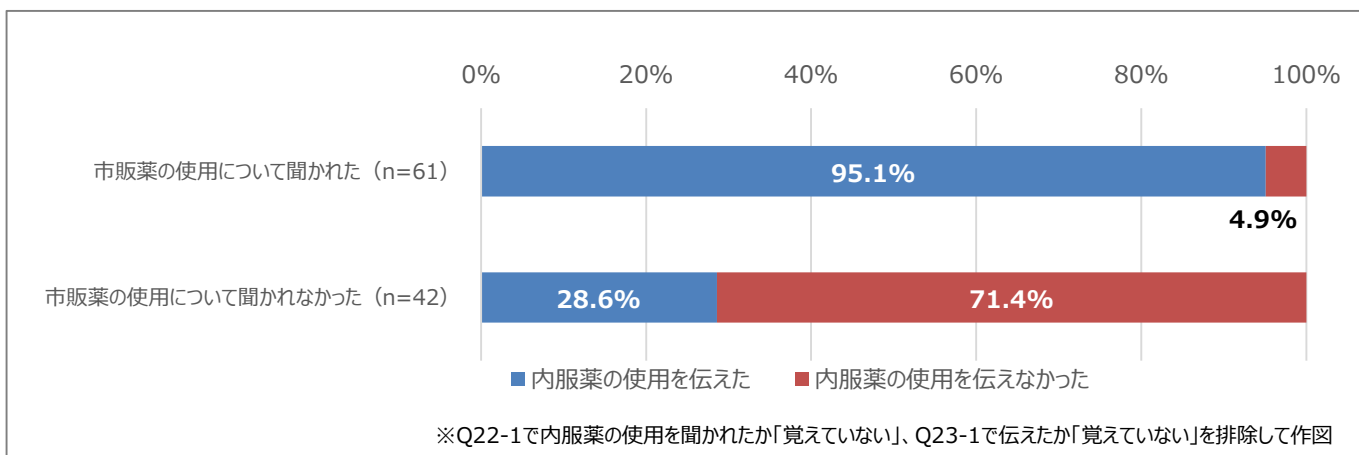
※「覚えていない」を除く

n=105		(SA)	
	n	%	
伝えた	71	67.6%	
伝えなかった	34	32.4%	
総数	105	100.0%	

**内服薬の服用「伝えたか」×「聞かれたか」**

市販薬の使用について聞かれたものの、「内服薬の使用を伝えなかった」のは4.9%。  
一方、市販薬の使用について聞かれなかったものの、「内服薬の使用を伝えた」のは28.6%だった。  
※Q22-1で内服薬の使用を聞かれたか「覚えていない」、Q23-1で伝えたか「覚えていない」を排除して算出

	内服薬の 使用を伝えた	内服薬の 使用を 伝えなかった	n %
市販薬の使用について聞かれた	58	3	61
	95.1%	4.9%	100.0%
市販薬の使用について聞かれなかった	12	30	42
	28.6%	71.4%	100.0%

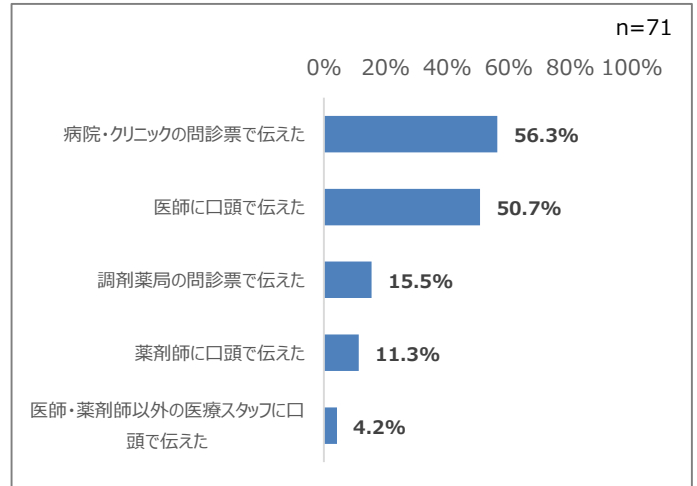


**【Q23-2】どこで伝えましたか。当てはまるものをすべて選んでください。【複数回答】**

※Q23-1で「伝えた」と回答した人のみ回答

半数以上の患者が市販の「内服薬の使用」を医師等に伝えていた。

	(MA)	
	n	%
病院・クリニックの間診票で伝えた	40	56.3%
医師に口頭で伝えた	36	50.7%
調剤薬局の間診票で伝えた	11	15.5%
薬剤師に口頭で伝えた	8	11.3%
医師・薬剤師以外の医療スタッフに口頭で伝えた	3	4.2%
総数	71	138.0%



**【Q24】前問で「伝えなかった」理由をできるだけ詳しく教えてください。**

代表的なコメントを以下に記載する。

- ・市販薬はとりあえず飲んだけで、処方された薬に切り替えるつもりだったから
- ・必要な薬が処方されればよいため
- ・成分が重ならないことを知っていたし、向こうからも聞かれなかった
- ・面倒で
- ・まめには服用していないから
- ・特に聞かれなかったから

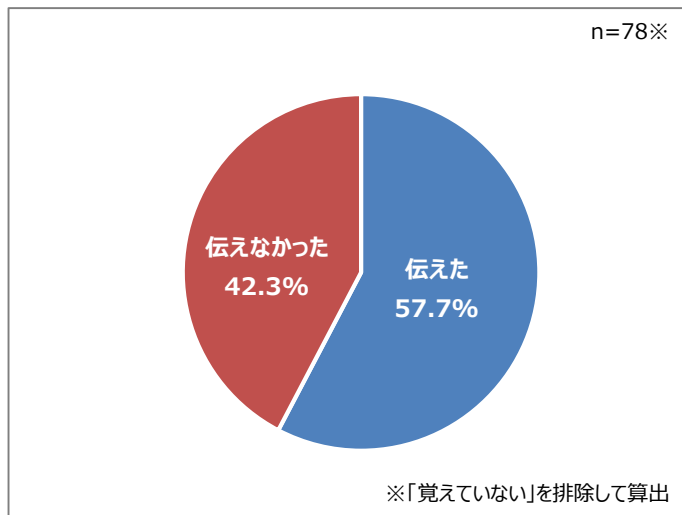
**【Q25-1】2016年に花粉症治療を目的に最初に病院・クリニックを受診したとき、市販の「点鼻薬」を使用したことを医師等に伝えましたか。**

※Q14-2で市販の「点鼻薬」を使用したと回答した人のみ回答

半数以上の患者が市販の点鼻薬の使用を医師等に伝えていた。

n=84 (SA)		
	n	%
伝えた	45	53.6%
伝えなかった	33	39.3%
覚えていない	6	7.1%
総数	84	100.0%

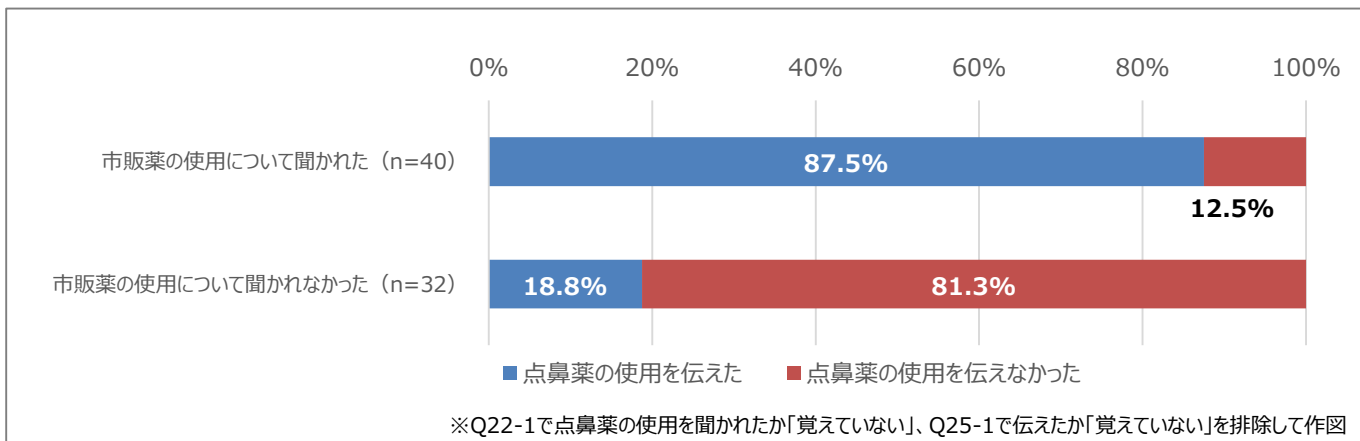
※「覚えていない」を除いて算出 n=78 (SA)		
	n	%
伝えた	45	57.7%
伝えなかった	33	42.3%
総数	78	100.0%



**点鼻薬の服用「伝えたか」×「聞かれたか」**

市販薬の使用について聞かれたものの、「点鼻薬の使用を伝えなかった」のは12.5%。  
一方、市販薬の使用について聞かれなかったものの、「点鼻薬の使用を伝えた」のは18.8%だった。  
※Q22-1で点鼻薬の使用を聞かれたか「覚えていない」、Q25-1で伝えたか「覚えていない」を排除して算出

	点鼻薬の使用を伝えた	点鼻薬の使用を伝えなかった	n %
市販薬の使用について聞かれた	35	5	40
	87.5%	12.5%	100.0%
市販薬の使用について聞かれなかった	6	26	32
	18.8%	81.3%	100.0%

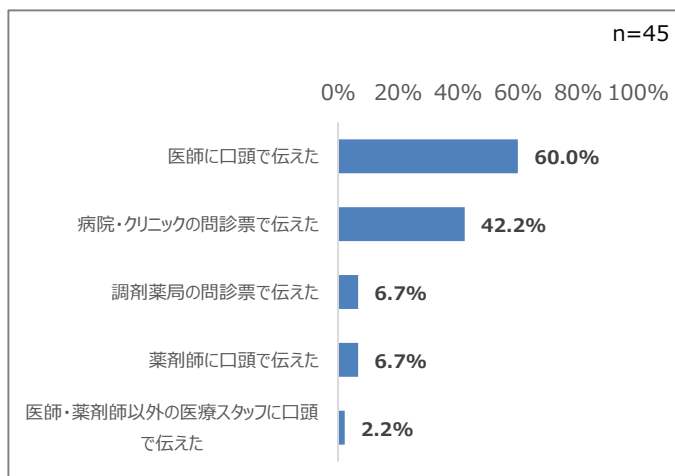


## 【Q25-2】どこで伝えましたか。当てはまるものをすべて選んでください。【複数回答】

### ※Q25-1で「伝えた」と回答した人のみ回答

「医師に口頭で伝えた」が最も多く60.0%、次いで「病院・クリニックの間診票で伝えた」(42.2%)だった。

	(MA)	
	n	%
医師に口頭で伝えた	27	60.0%
病院・クリニックの間診票で伝えた	19	42.2%
調剤薬局の間診票で伝えた	3	6.7%
薬剤師に口頭で伝えた	3	6.7%
医師・薬剤師以外の医療スタッフに口頭で伝えた	1	2.2%
総数	45	117.8%



## 【Q26】前問で「伝えなかった」理由をできるだけ詳しく教えてください。

代表的なコメントを以下に記載する。

- ・必要ないと感じたので
- ・聞かれなかったから
- ・いつも使用するわけではなく、眠れないくらいの鼻づまりで使う程度なので
- ・皮膚を荒らす薬があると聞いたので、医師には言わなかった。医師から出してもらう薬を信頼したかった
- ・いつも常用しているから
- ・点鼻薬を受診より先に使用しており、医師に点鼻薬はいりますか？と聞かれ、もう購入したとは答えにくかったから

## 【Q27】2016年に花粉症治療を目的に最初に病院・クリニックを受診したとき、医師や薬剤師に聞いたかかったのに聞けなかったことはありますか。できるだけ詳しく教えてください。

代表的なコメントを以下に記載する。

- ・新薬の有無
- ・治療法に選択肢はあるのか
- ・もっと強力な薬がほしい
- ・減感作や舌下免疫など、「対症療法」以外を検討してみたいと思っていたが、慌しくて聞きそびれた
- ・今後の症状がどうなるのか。現状維持なのか、悪化するのか聞きたかったが、なんとなく聞けなかった
- ・ジェネリック医薬品を処方してくれるかどうか
- ・2週間分しか薬がもらえなかったが、1か月分まとめてもらえないか
- ・5月以降にまたひどくなるのは何が原因か
- ・薬の服用後、車両の運転可否を詳細に聞いたかった
- ・症状がやわらいでもアレルギーの薬はずっと飲み続けるべきか
- ・市販薬と処方薬で同じ名前なのは効果が違うのか
- ・最先端の治療法について
- ・飲酒とアレルギーの関係
- ・処方薬の効果が実感できないが、服薬をやめて確認する勇気がないこと
- ・何の花粉が原因か、検査をするタイミング
- ・食後に飲み忘れた時はあとから飲んでもいいのか
- ・目薬の効果、コンタクトとの相性、使用時のコンタクトの可否

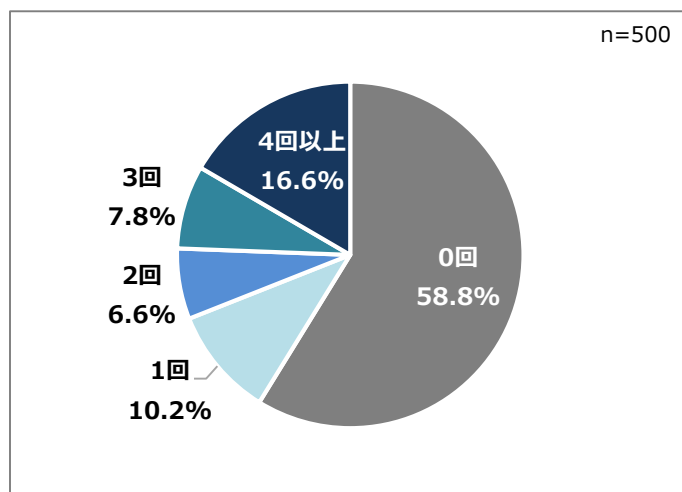
## 季節性＋通年性（自覚症状ありのみも含む）合併患者の受療実態

【Q28】2015年10月～2016年12月の時期に、花粉症以外のアレルギー（ハウスダスト、ダニ、カビ、ペットの毛など）を原因とする鼻炎の治療を目的に病院・クリニックを何回受診しましたか。

※SC2で、花粉症以外のアレルギー（ハウスダスト、ダニ、カビ、ペットの毛など）について「診断された」または「診断されていないが、自覚症状あり」と回答した人のみ回答

「0回」が最も多く、58.8%だった。次いで、「4回以上」（16.6%）、「1回」（10.2%）だった。

n=500		(SA)	
	n	%	
0回	294	58.8%	
1回	51	10.2%	
2回	33	6.6%	
3回	39	7.8%	
4回以上	83	16.6%	
総数	500	100.0%	

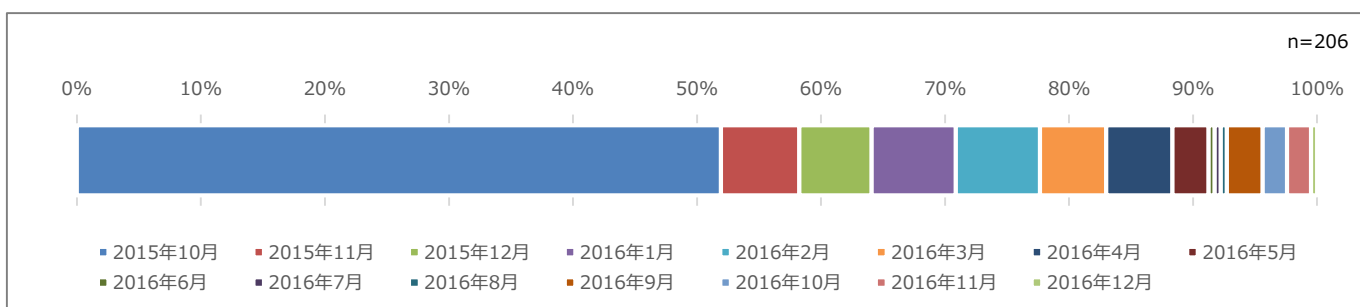


【Q29-1】花粉症以外のアレルギーを原因とする鼻炎の治療を目的とした最初の受診日を教えてください。

※Q28で受診回数が「0回」の人以外が回答

「2015年10月」が最も多く、51.9%。次いで「2016年1月」「2016年2月」が6.8%だった。

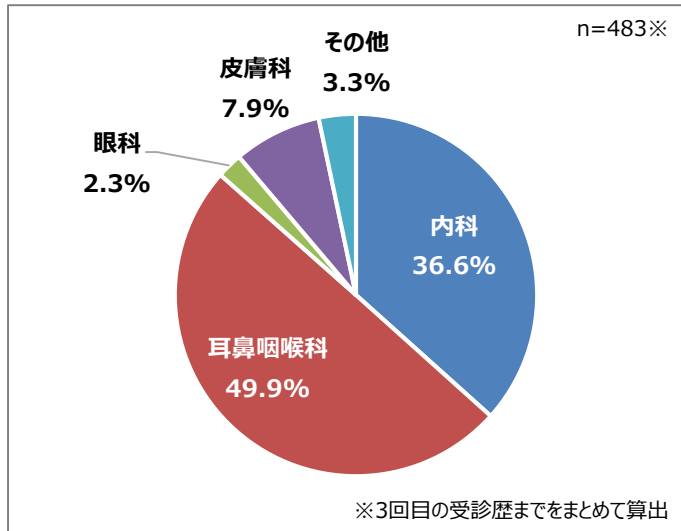
n=206		(SA)	
	n	%	
2015年10月	107	51.9%	
2015年11月	13	6.3%	
2015年12月	12	5.8%	
2016年1月	14	6.8%	
2016年2月	14	6.8%	
2016年3月	11	5.3%	
2016年4月	11	5.3%	
2016年5月	6	2.9%	
2016年6月	1	0.5%	
2016年7月	1	0.5%	
2016年8月	1	0.5%	
2016年9月	6	2.9%	
2016年10月	4	1.9%	
2016年11月	4	1.9%	
2016年12月	1	0.5%	
総数	206	100.0%	



## 【Q29-2】受診科目を教えてください。

※Q28で受診回数が「0回」の人以外が回答

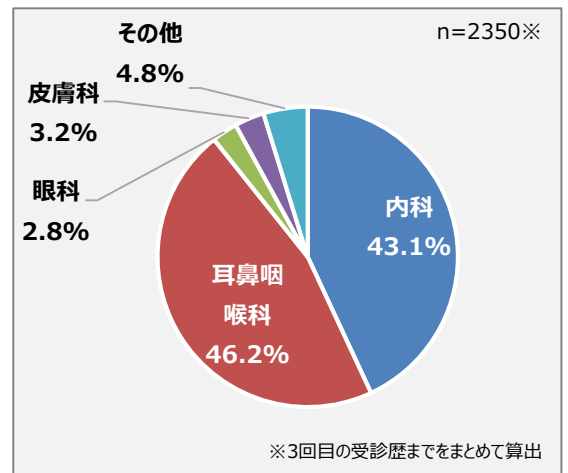
「耳鼻咽喉科」が最も多く49.9%、次いで「内科」が36.6%だった。



(SA)

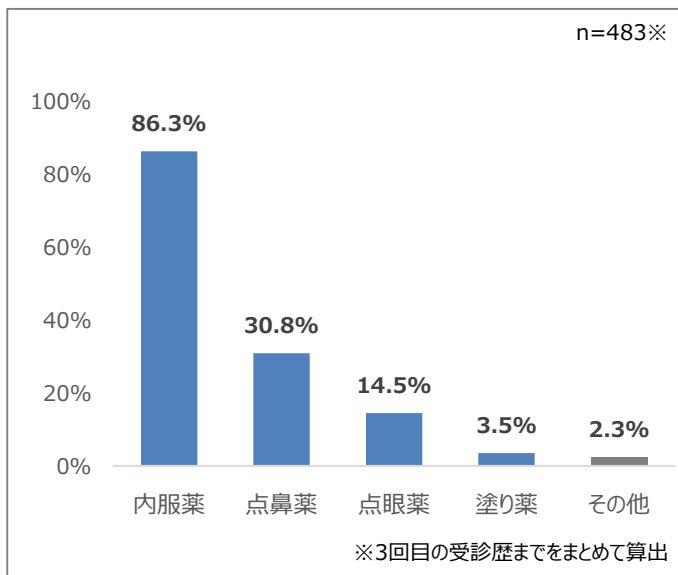
	1回目	2回目	3回目	n	%
内科	74	57	46	177	36.6%
耳鼻咽喉科	106	75	60	241	49.9%
眼科	5	5	1	11	2.3%
皮膚科	16	12	10	38	7.9%
その他	5	6	5	16	3.3%
総数	206	155	122	483	100.0%

### 【参考】花粉症（季節性）患者の受診科目



## 【Q29-3】処方された薬剤の種類を教えてください。【複数回答】

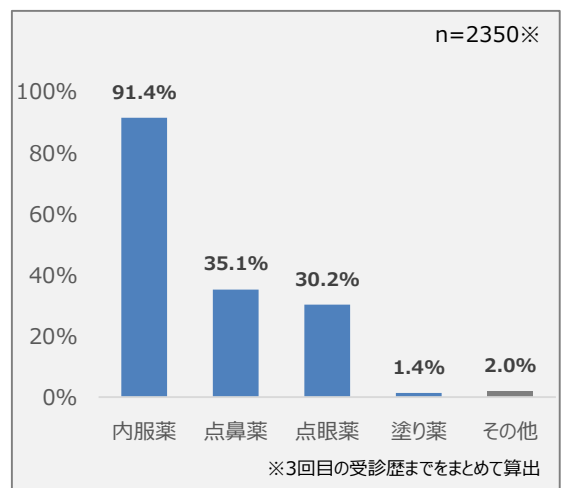
「内服薬」が最も多く、86.3%。「点鼻薬」は30.8%、「点眼薬」は14.5%だった。



(MA)

	1回目	2回目	3回目	n	%
内服薬	175	136	106	417	86.3%
点鼻薬	63	48	38	149	30.8%
点眼薬	33	21	16	70	14.5%
塗り薬	7	5	5	17	3.5%
その他	4	4	3	11	2.3%
総数	206	155	122	483	137.5%

### 【参考】花粉症（季節性）患者の処方薬剤

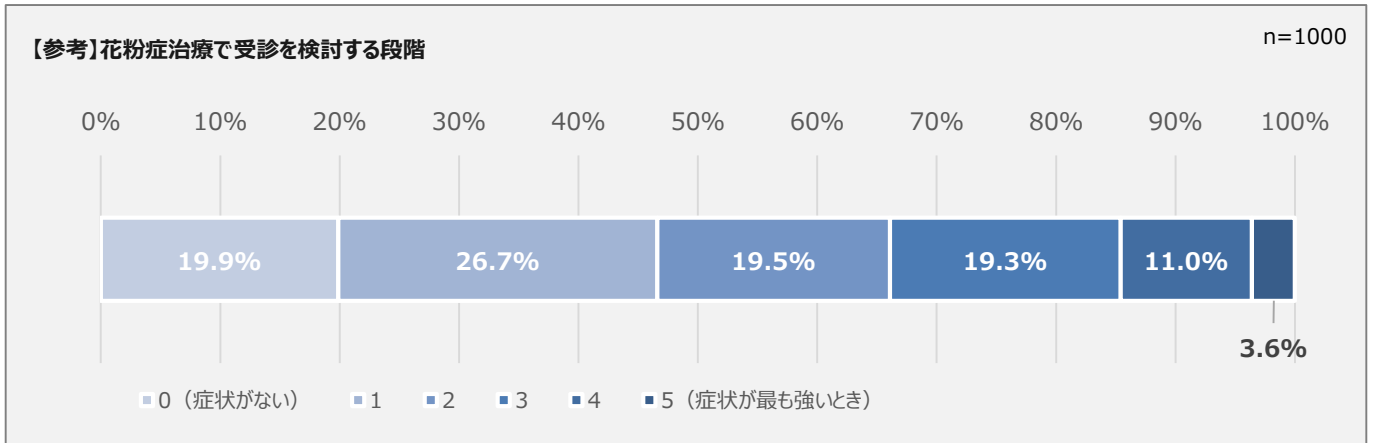
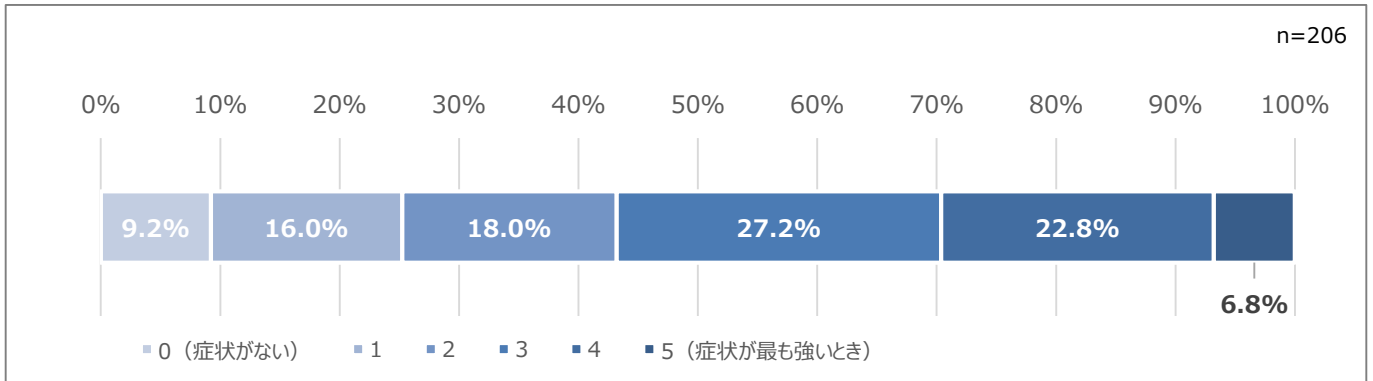




**【Q30】花粉症以外のアレルギー（ハウスダスト、ダニ、カビ、ペットの毛など）を原因とする鼻炎の治療を目的に病院・クリニックの受診を検討するのはどの段階からですか。症状がまったくないときを「0」、最も強いとき（ピーク）を「5」とした場合の段階を選んでください。**

「3」が最も多く27.2%、次いで「4」が22.8%だった。全回答の指数の平均は2.59だった。

	(SA)	
	n	%
0 (症状がない)	19	9.2%
1	33	16.0%
2	37	18.0%
3	56	27.2%
4	47	22.8%
5 (症状が最も強いとき)	14	6.8%
総数	206	100.0%

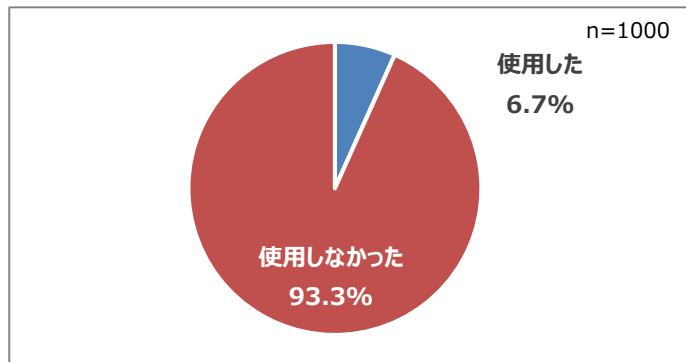


【Q31-1】2015年10月～2016年12月の時期についてお聞きします。病院・クリニックで処方された薬（処方薬）と併用して、花粉症以外のアレルギー（ハウスダスト、ダニ、カビ、ペットの毛など）や寒暖差などが原因の鼻炎に対する市販薬を使用しましたか。【複数回答】

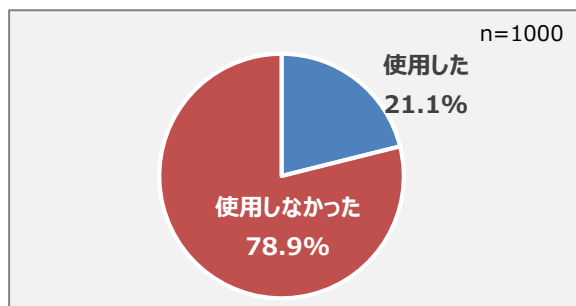
6.7%の患者が市販薬を使用したと回答した。

n=1000 (SA)

	n	%
使用した	67	6.7%
使用しなかった	933	93.3%
総数	1000	100.0%



【参考】花粉症（季節性）患者の市販薬使用実態



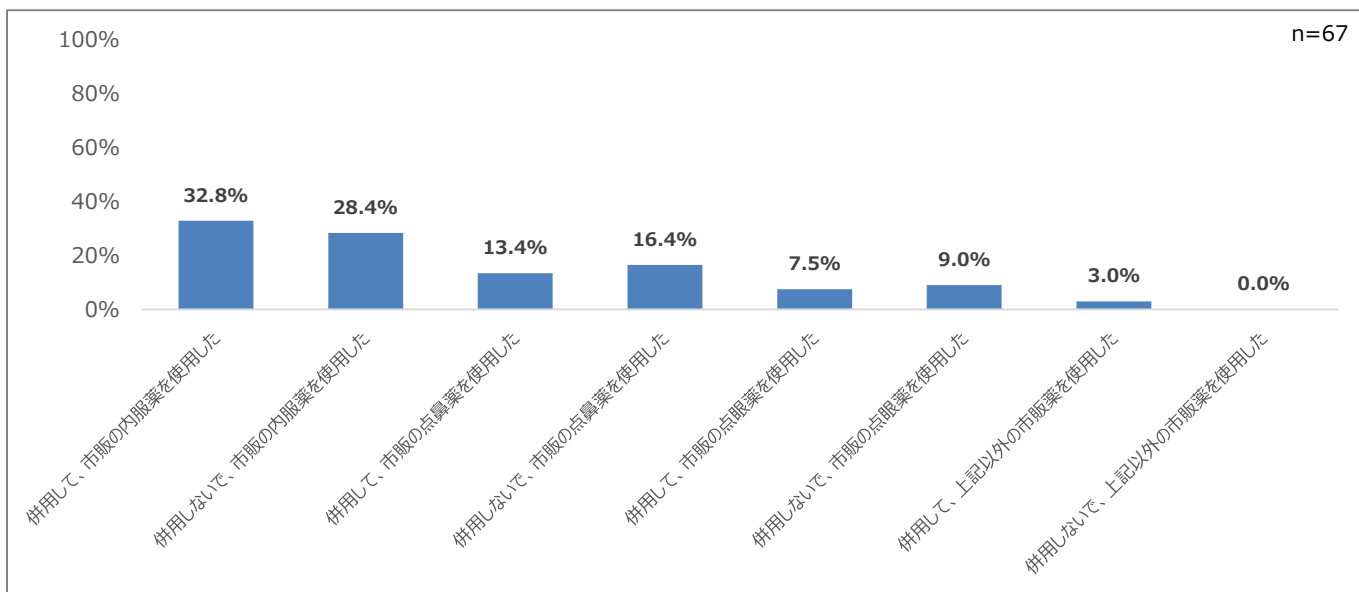
【Q31-2】使用した市販薬について教えてください。【複数回答】

※Q31-1で「市販薬を使用した」と回答した人のみ回答

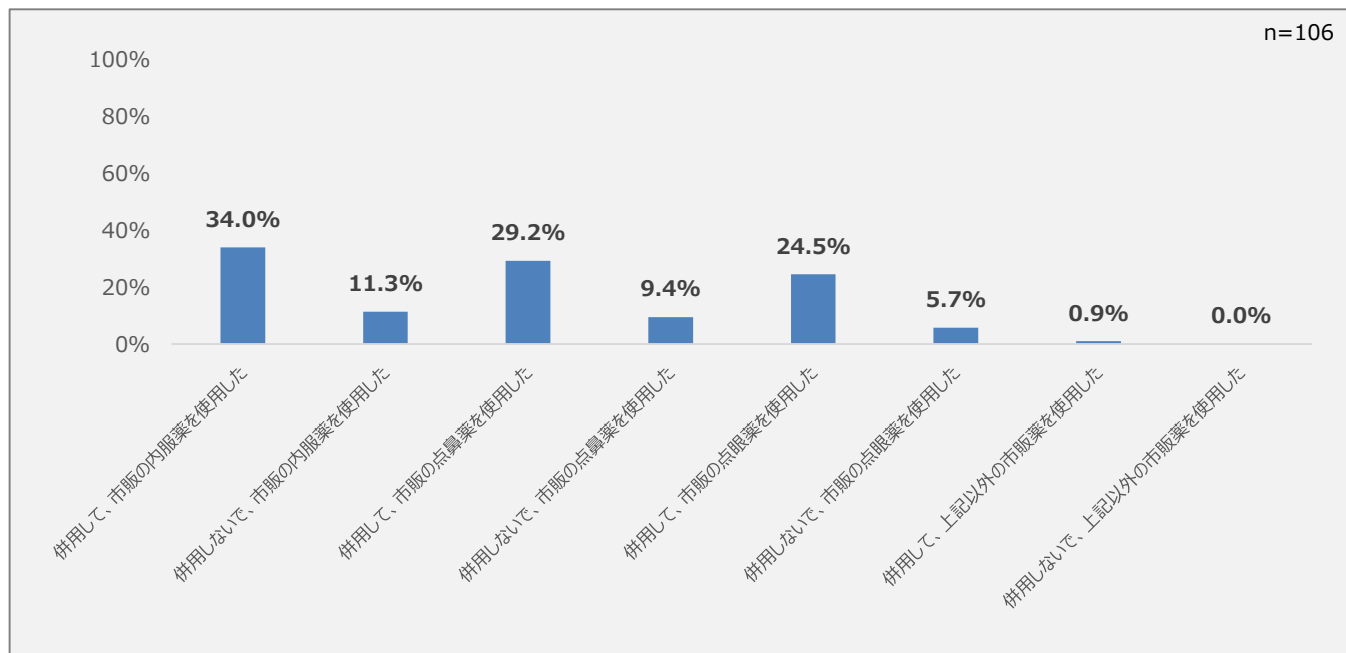
「内服薬を併用」が最も多く32.8%、次いで「併用せずに内服薬」（28.4%）、「併用せずに点鼻薬」（16.4%）と続いた。

n=67 (MA)

	n	%
併用して、市販の内服薬を使用した	22	32.8%
併用しないで、市販の内服薬を使用した	19	28.4%
併用して、市販の点鼻薬を使用した	9	13.4%
併用しないで、市販の点鼻薬を使用した	11	16.4%
併用して、市販の点眼薬を使用した	5	7.5%
併用しないで、市販の点眼薬を使用した	6	9.0%
併用して、上記以外の市販薬を使用した	2	3.0%
併用しないで、上記以外の市販薬を使用した	0	0.0%
総数	67	110.4%



【参考】花粉症（季節性）患者の市販薬使用・併用実態



薬剤種類別

内服薬

n=41

	n	%
併用して、市販の内服薬を使用した	22	53.7%
併用しないで、市販の内服薬を使用した	19	46.3%
総数	41	100.0%

点鼻薬

n=20

	n	%
併用して、市販の点鼻薬を使用した	9	45.0%
併用しないで、市販の点鼻薬を使用した	11	55.0%
総数	20	100.0%

点眼薬

n=11

	n	%
併用して、市販の点眼薬を使用した	5	45.5%
併用しないで、市販の点眼薬を使用した	6	54.5%
総数	11	100.0%

その他

n=2

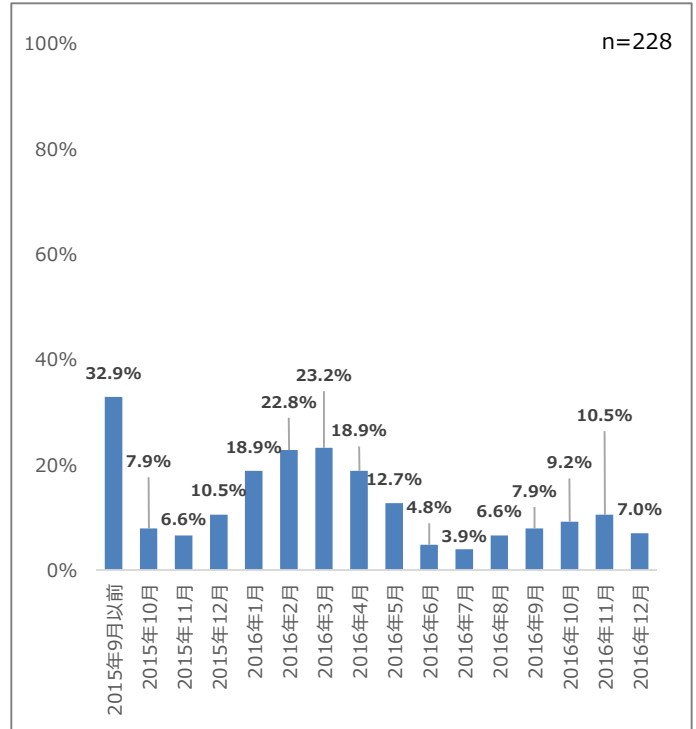
	n	%
併用して、上記以外の市販薬を使用した	2	100.0%
併用しないで、上記以外の市販薬を使用した	0	0.0%
総数	2	100.0%

**【Q32】2015年10月～2016年12月の時期にドラッグストアや薬局で花粉症やそれ以外のアレルギーなどを原因とする鼻炎に対する市販薬を購入した月をすべて選んでください。【複数回答】**

※Q14-1、Q18-1、Q31-1で「市販薬を使用した」と答えた人のみ回答

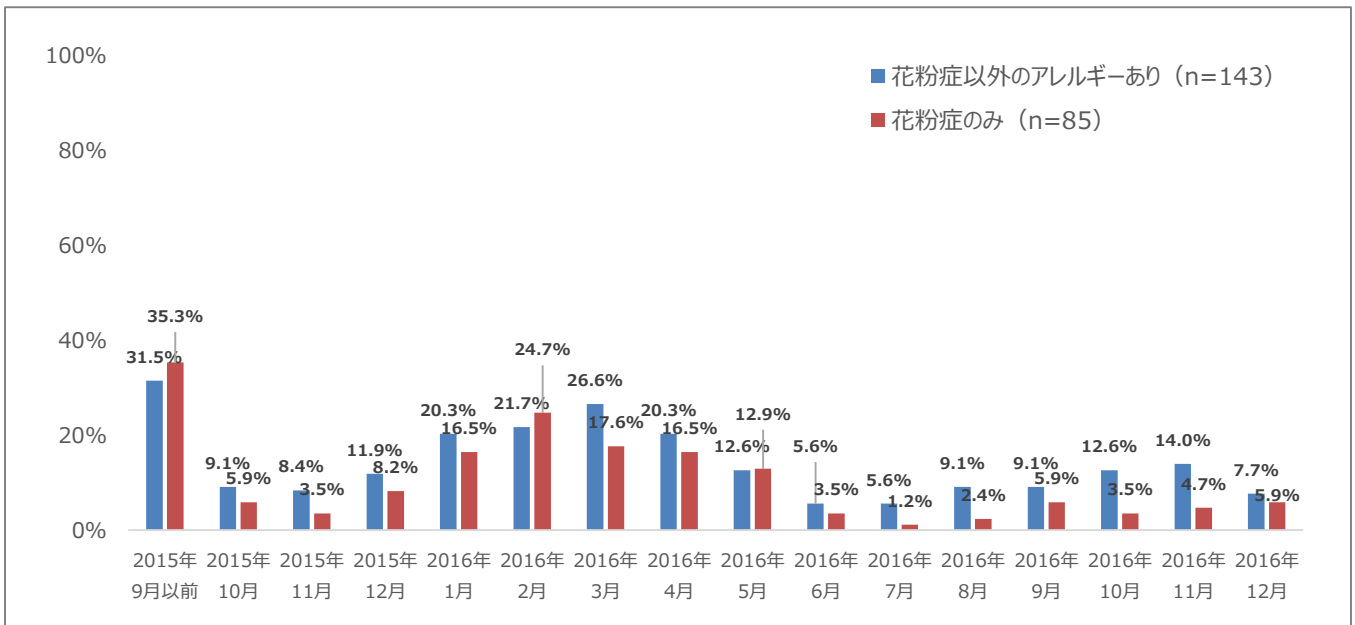
単月では「2016年3月」が最も多く23.2%、次いで「2016年2月」が22.8%だった。

n=228	(MA)	
	n	%
2015年9月以前	75	32.9%
2015年10月	18	7.9%
2015年11月	15	6.6%
2015年12月	24	10.5%
2016年1月	43	18.9%
2016年2月	52	22.8%
2016年3月	53	23.2%
2016年4月	43	18.9%
2016年5月	29	12.7%
2016年6月	11	4.8%
2016年7月	9	3.9%
2016年8月	15	6.6%
2016年9月	18	7.9%
2016年10月	21	9.2%
2016年11月	24	10.5%
2016年12月	16	7.0%
総数	228	204.4%



**市販薬購入時期「花粉症」×「花粉症以外のアレルギーもあり」**

	2015年9月以前	2015年10月	2015年11月	2015年12月	2016年1月	2016年2月	2016年3月	2016年4月	2016年5月	2016年6月	2016年7月	2016年8月	2016年9月	2016年10月	2016年11月	2016年12月	n	%
花粉症以外のアレルギーあり	45	13	12	17	29	31	38	29	18	8	8	13	13	18	20	11	143	225.9%
花粉症のみ	30	5	3	7	14	21	15	14	11	3	1	2	5	3	4	5	85	168.2%



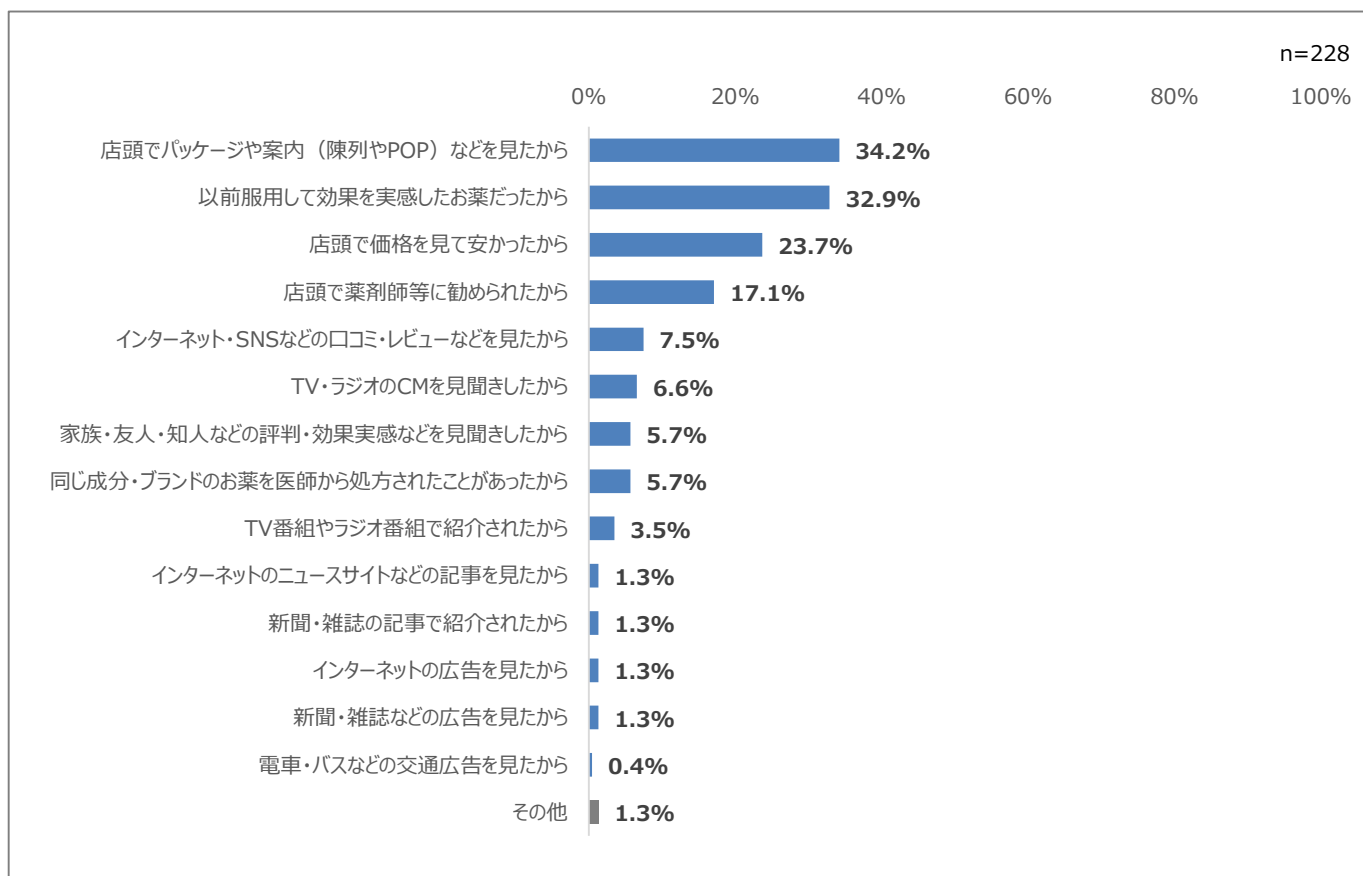
## その他

【Q33】2015年10月～2016年12月の時期に鼻炎に対する市販薬を購入した際の選定基準は何でしたか。【複数回答】

※Q14-1、Q18-1、Q31-1で「市販薬を使用した」と答えた人のみ回答

「店頭でパッケージや案内（陳列やPOP）などを見たから」が最も多く34.2%だった。次いで「以前服用して効果を実感したお薬だったから」が32.9%だった。

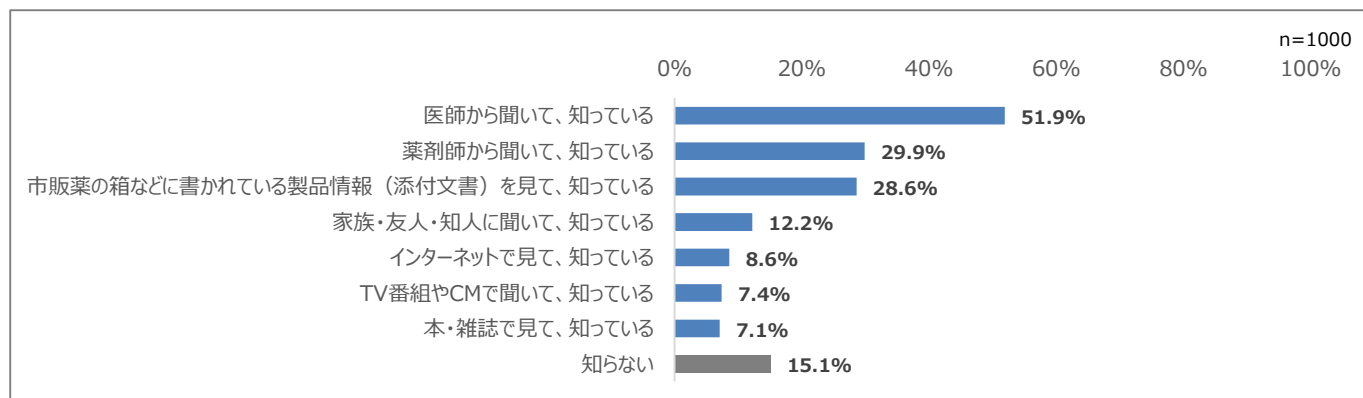
n=228	(MA)	
	n	%
店頭でパッケージや案内（陳列やPOP）などを見たから	78	34.2%
以前服用して効果を実感したお薬だったから	75	32.9%
店頭で価格を見て安かったから	54	23.7%
店頭で薬剤師等に勧められたから	39	17.1%
インターネット・SNSなどの口コミ・レビューなどを見たから	17	7.5%
TV・ラジオのCMを見聞きしたから	15	6.6%
家族・友人・知人などの評判・効果実感などを見聞きしたから	13	5.7%
同じ成分・ブランドのお薬を医師から処方されたことがあったから	13	5.7%
TV番組やラジオ番組で紹介されたから	8	3.5%
インターネットのニュースサイトなどの記事を見たから	3	1.3%
新聞・雑誌の記事で紹介されたから	3	1.3%
インターネットの広告を見たから	3	1.3%
新聞・雑誌などの広告を見たから	3	1.3%
電車・バスなどの交通広告を見たから	1	0.4%
その他	3	1.3%
総数	228	143.9%



### 【Q34】鼻炎に対する市販薬には眠くなる成分が含まれるものもあることを知っていますか。【複数回答】

84.9%が何らかの形で知っていた。情報源は「医師から」が最も多く51.9%だった。

	(MA)	
	n	%
医師から聞いて、知っている	519	51.9%
薬剤師から聞いて、知っている	299	29.9%
市販薬の箱などに書かれている製品情報（添付文書）を見て、知っている	286	28.6%
家族・友人・知人に聞いて、知っている	122	12.2%
インターネットで見て、知っている	86	8.6%
TV番組やCMで聞いて、知っている	74	7.4%
本・雑誌で見て、知っている	71	7.1%
知らない(排他)	151	15.1%
総数	1000	160.8%

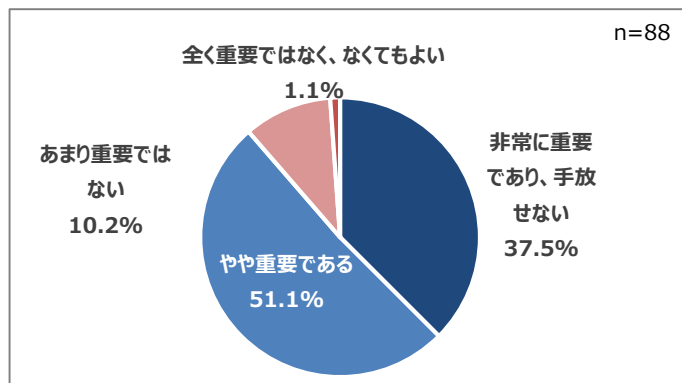


### 【Q35】花粉症やそれ以外のアレルギー症状を軽減するにあたって、市販の点鼻薬はどのくらい重要ですか。

※Q14-1、Q18-1、Q31-1で「市販の点鼻薬を使用した」と答えた人のみ回答

88.6%が「非常に重要」「やや重要」と回答した。

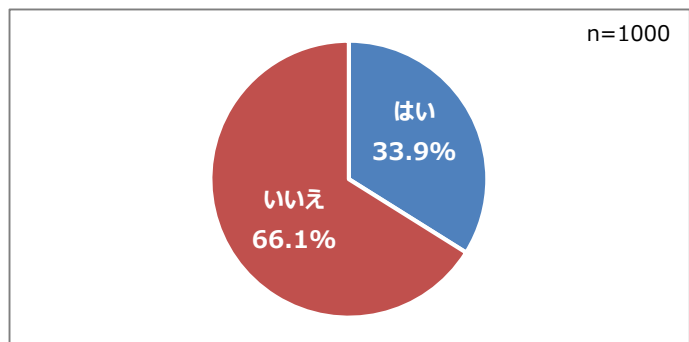
	(SA)	
	n	%
非常に重要であり、手放せない	33	37.5%
やや重要である	45	51.1%
あまり重要ではない	9	10.2%
全く重要ではなく、なくてもよい	1	1.1%
総数	88	100.0%



### 【Q36】点鼻薬について、規定の回数や期間を超えて使用することが、「薬剤性鼻炎」という炎症の原因となることを知っていますか。

33.9%が「薬剤性鼻炎」の原因について知っていた。

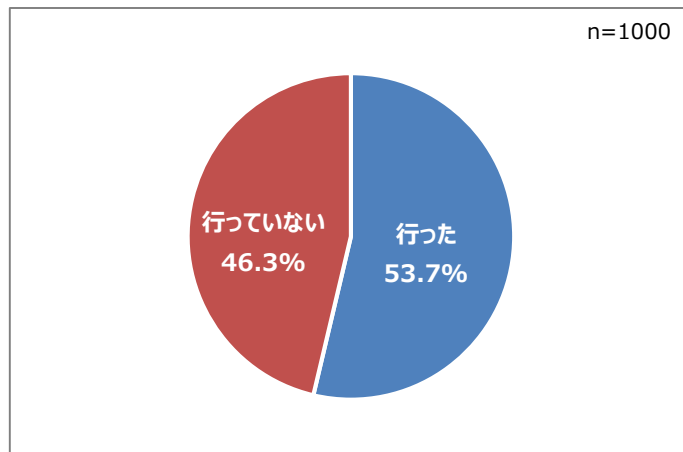
	(SA)	
	n	%
はい	339	33.9%
いいえ	661	66.1%
総数	1000	100.0%



【Q37-1】病院・クリニックの受診、お薬（処方薬、市販薬）の使用以外の花粉症対策を行いましたか。

半数以上が、薬以外の花粉症対策を実施していた。

	n=1000 (SA)	
	n	%
行った	537	53.7%
行っていない	463	46.3%
総数	1000	100.0%



【Q37-2】花粉症対策として、病院・クリニックの受診、お薬（処方薬、市販薬）の使用以外に行ったことについて、当てはまるものをすべて選んでください。

※Q37-1で「行った」と回答した人のみ回答

「ヨーグルト」の摂取が最も多く、81.2%。次いで「甜茶」（19.4%）、「ミントガム」（16.2%）と続いた。

	n=537 (MA)	
	n	%
ヨーグルト	436	81.2%
甜茶	104	19.4%
ミントガム	87	16.2%
乳酸菌錠	77	14.3%
シソ	47	8.8%
スギ花粉飴	44	8.2%
べにふうき茶	42	7.8%
ハーブ茶	33	6.1%
青汁	32	6.0%
プロポリス	29	5.4%
鼻スチーム療法	27	5.0%
温泉（入浴療法）	27	5.0%
ドクダミ茶	22	4.1%
アロマテラピー	19	3.5%
鍼灸	18	3.4%
アロエ	15	2.8%
柿の葉茶	12	2.2%
シジュウム茶	6	1.1%
その他	42	7.8%
総数	537	127.2%

